

第5回 清掃工場整備計画に関する検証委員会 次 第

日 時：令和7年7月22日（火）15時～17時

場 所：東京区政会館 19階 192会議室

1. 開 会

2. 議 事

**諮問事項2：清掃主管部長会で検討したごみ減量施策以外の新たな
ごみ減量施策の検討**

(1) 23区の資源回収量・ごみ量組成割合等について

(2) 23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策について

3. 閉 会

< 配付資料 >

資料1 松藤委員提出資料

資料2 23区の資源回収量・ごみ組成割合一覧

資料3 23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

清掃事業概要（5年度）の分析

2025年7月3日 松藤

(1)区ごとのごみ量

図1 住民一人一日あたりごみ量

左からブロック順

図2 横軸にごみ量，縦軸に資源回収量（ステーション，集団回収，ピックアップの合計）

全体としては無相関に見えるが，右上のグループを除くと，負の相関がある。傾きが-1であり，資源回収量の分だけごみ量が少ないと解釈できる。

(2)ごみ量の多い区（図2の右上のグループ）

図3(a) 住民千人あたりの事業所数を縦軸にとり，ごみ量との関係を比較。（本来なら横軸を事業所数とすべきだが，全体の図の形を統一するため）

両者には正の相関がある。すなわち事業系ごみが一緒に収集されているため，収集量が増加している。

図3(b)は，昼間/夜間人口比との関係。収集量は家庭系なので，ごみ量との直接的な関係はない。事業所数が多い区は昼間/夜間人口比も大きいことから，相関があるように見える。

(3)資源回収量の内訳

図4 資源回収量の内訳。割合の大きいのは，紙類，びん・缶，プラスチック

図5 各品目の内訳。縦軸のスケールはそろえているので，バーの長さが回収量を表す。

びん・缶の回収量には差が小さいが，紙類とプラスチックは区の間で違いがある。

小型家電の回収量は，大きいとは言えない。

図4のその他は，「廃食用油，電池，蛍光管，その他」となっている。（小型家電も「その他」だが，図4，図5では別とした。図4より，これらの回収量はとても小さい。

(4)可燃ごみ組成

表1 各区の可燃ごみ組成。

左に資源物を区分している区，右は資源物の区分がない区。

図5 図1より，負の相関がみられる自治体のみをプロット。

ごみ量の少ない（◎），多い（▲），その中間（△）のみを抜き出して比較。

ごみ量が少なければごみ中の資源物割合が小さいはずだが，W区は逆に大きいなど，はっきりとした特徴は見られない。ただしF区は小さい。

組成の中身より，紙類，プラの割合が大きいので，これらの分別によってごみ量は減少する。

一定の傾向が見られないのは，組成分析精度が低いためと思われる。

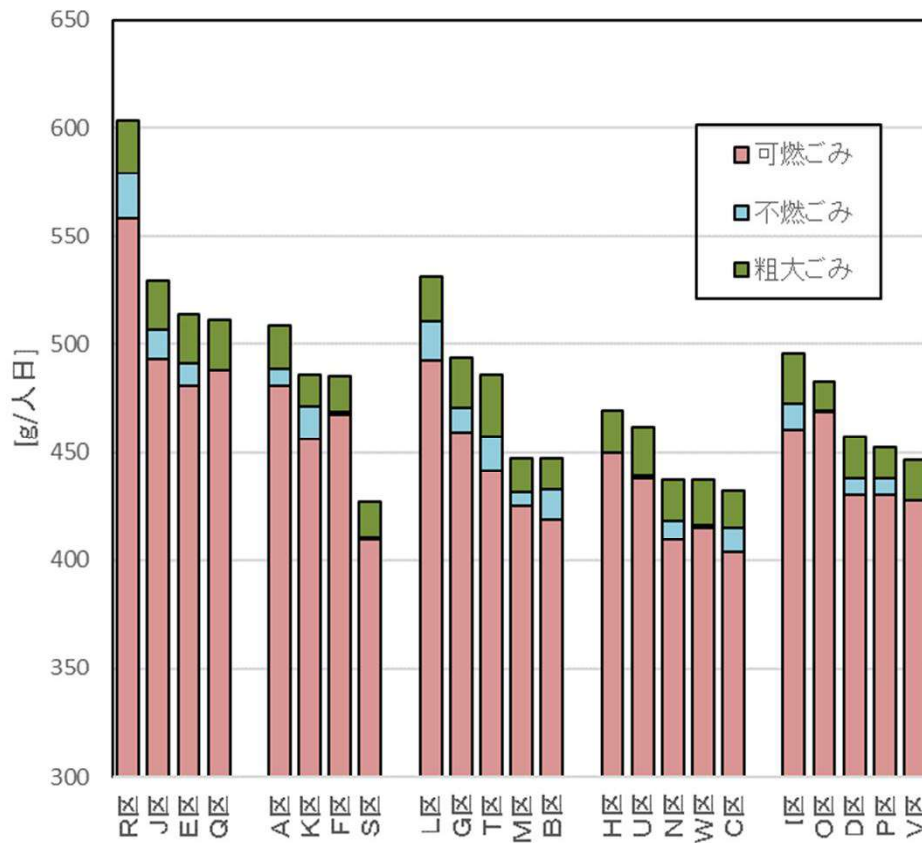
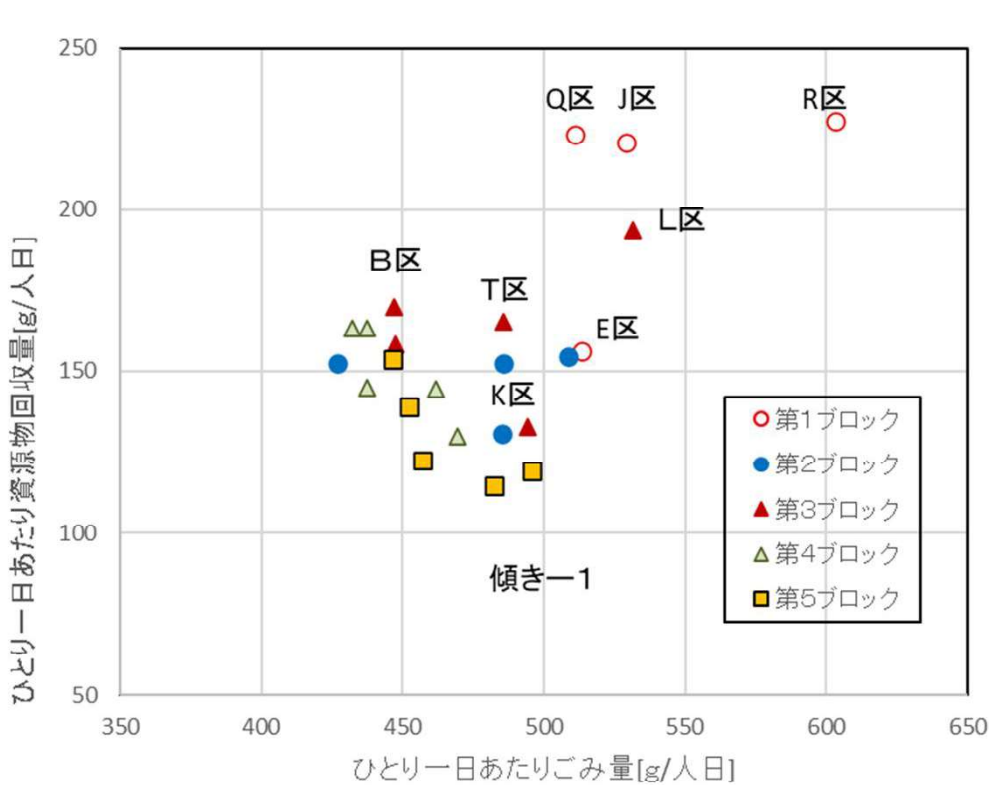


図1 ひとり一日あたりごみ量



	ごみ量	資源回収量
R区	603	227
J区	529	221
E区	513	156
Q区	511	223
A区	509	154
K区	486	153
F区	485	131
S区	427	153
L区	531	194
G区	494	133
T区	486	165
M区	447	158
B区	447	170
H区	469	130
U区	462	144
N区	437	145
W区	437	163
C区	432	163
I区	496	119
O区	482	115
D区	457	122
P区	452	139
V区	447	154

図2 ごみ量VS資源物回収量

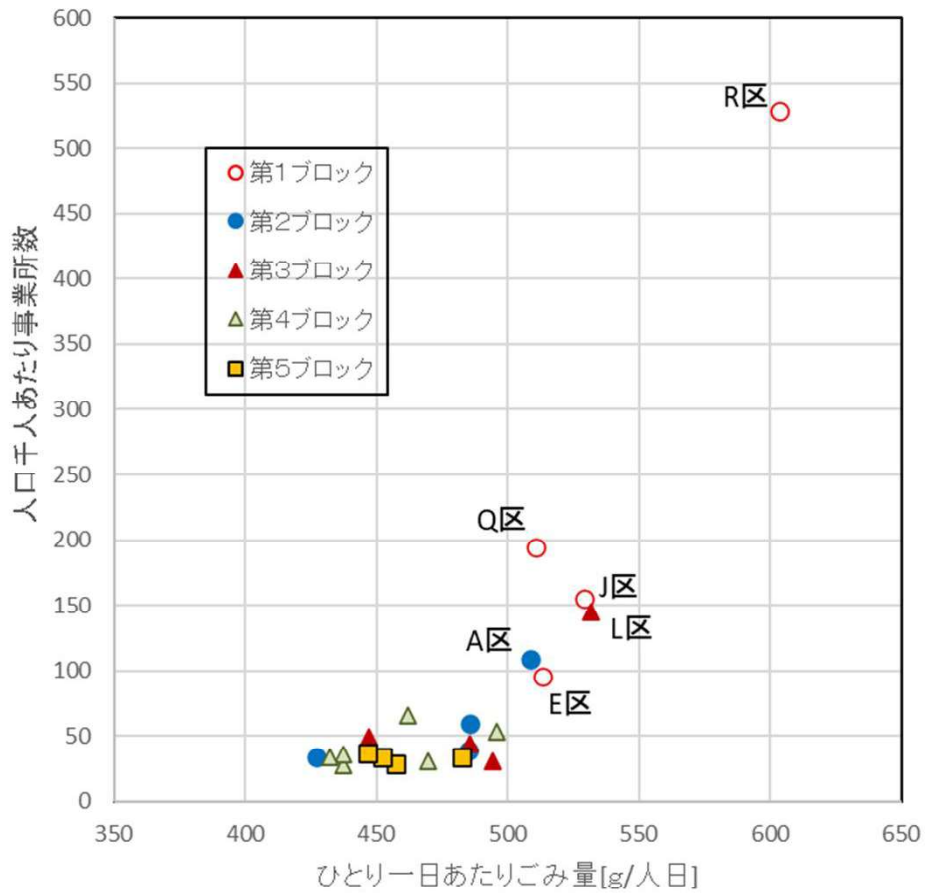


図3(a) ごみ量VS事業所数

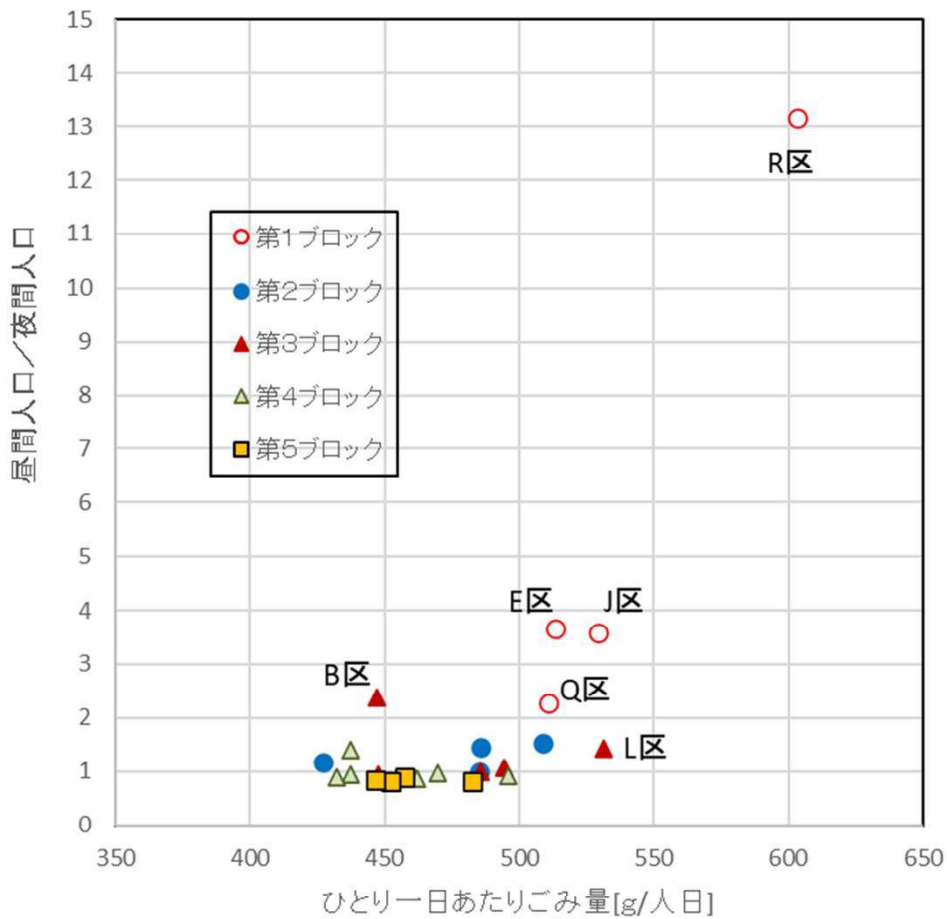


図3(b) ごみ量VS昼間/夜間人口

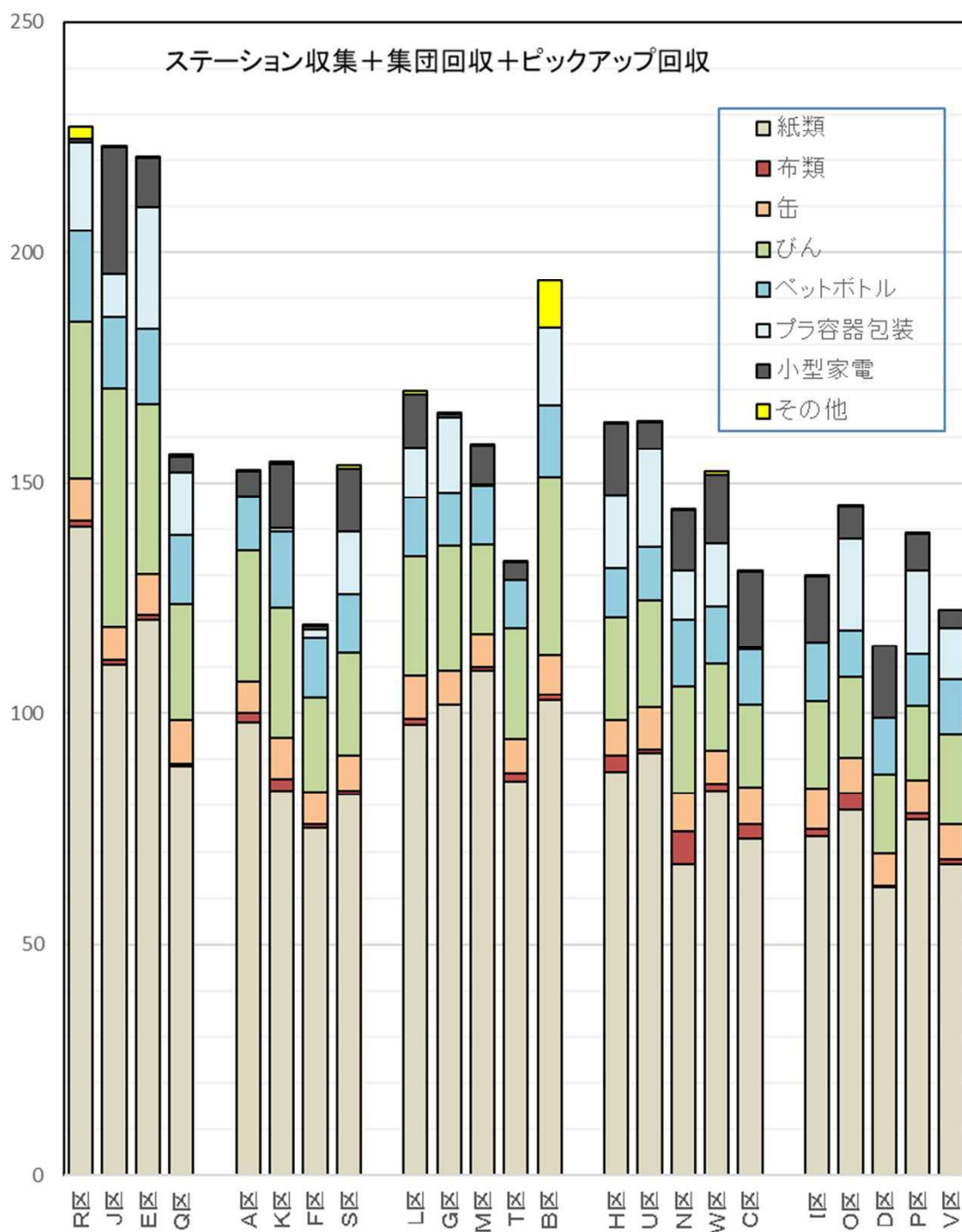


図4 一人一日あたり資源物回収量

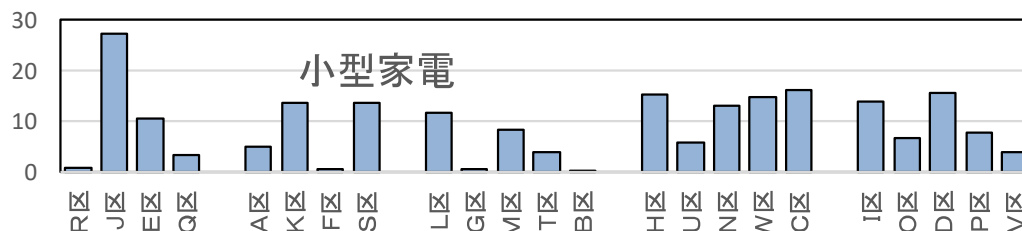
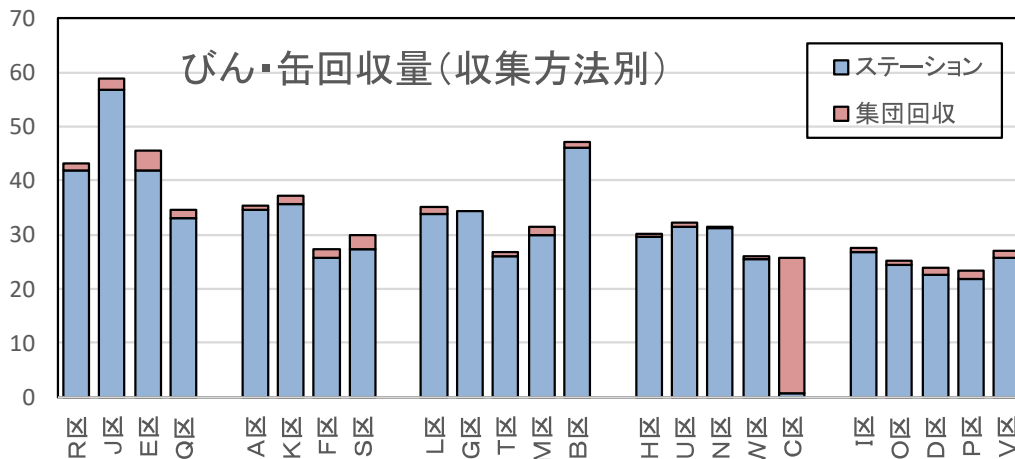
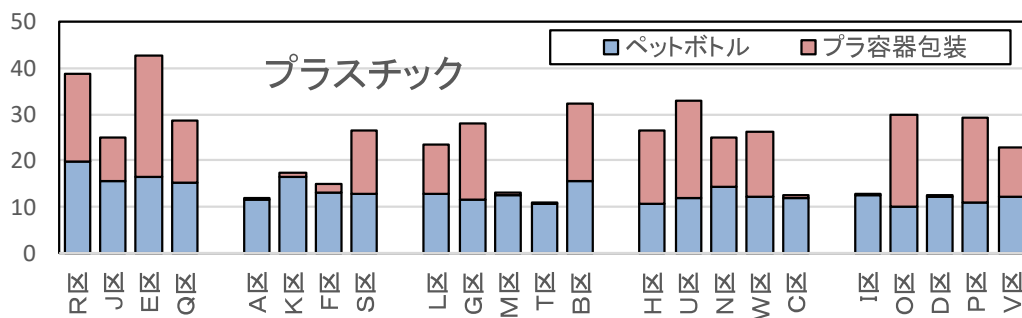
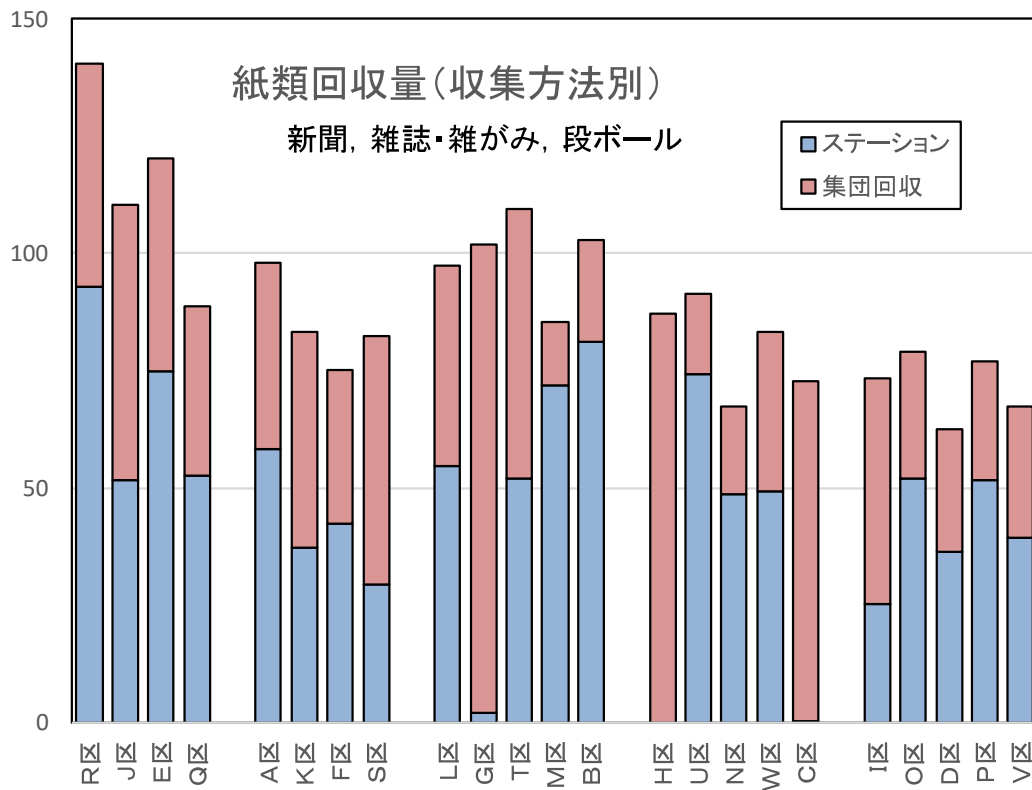


図5 資源品目別の回収量

表 1 (a) 可燃ごみの組成

ブロック			資源物を区分している 割合[%]	資源物の区分がない 主な組成[%]
1		R区	18.4	うち紙類17.6 容器包装7.3, それ以外のプラ4.2
1		Q区	19	うち紙類13.2 資源物中容リプラ2.5, 汚れたものを含めると資源物は32.3
1		J区		資源物分類なし。容リプラ13.1, 製品プラ3.9
1		E区		資源物分類なし。容リプラ11.6, 製品プラ2.1
2		K区	19.8	うち紙類15.1 容リプラ11.9, 製品プラ3.1
2		A区		古紙15.1。容リプラは燃やすごみ
2	◎	S区		資源物分類なし。プラ13.3
2	▲	F区	8	紙類5.7, その他2. 容リプラ13.5, 製品プラ2.6
3		B区	26.8	紙類12.5, 容リプラ14.3
3		T区	27.2	古紙15.2, プラ12.0
3	△	M区	29.6	内訳不明
3	▲	G区	17.2	紙類12.5, 布類3.4
3		L区	24.1	紙類12.7, 容リプラ3.6, 製品プラ1.9, 布類5.3
4	◎	W区	27.5	容リプラ5.6, 紙類16.2, 繊維4.6
4	◎	C区		資源物分類なし。プラ15, 紙類16.7
4		U区		資源物分類なし。容リプラ13.4, 製品プラ4.6
4		H区		細組成
4	◎	N区	17.8	紙類10.8, 容リプラ3.5, 繊維類2.7
5	▲	I区		素材別分類のみ
5	△	V区	20.7	古紙12.2, プラ8.5
5	▲	O区		資源物分類なし。プラ18.3(平成30年度)
5		P区		資源物分類なし。プラ12.5
5	△	D区	15.9	紙類10.4, 容リプラ4.2

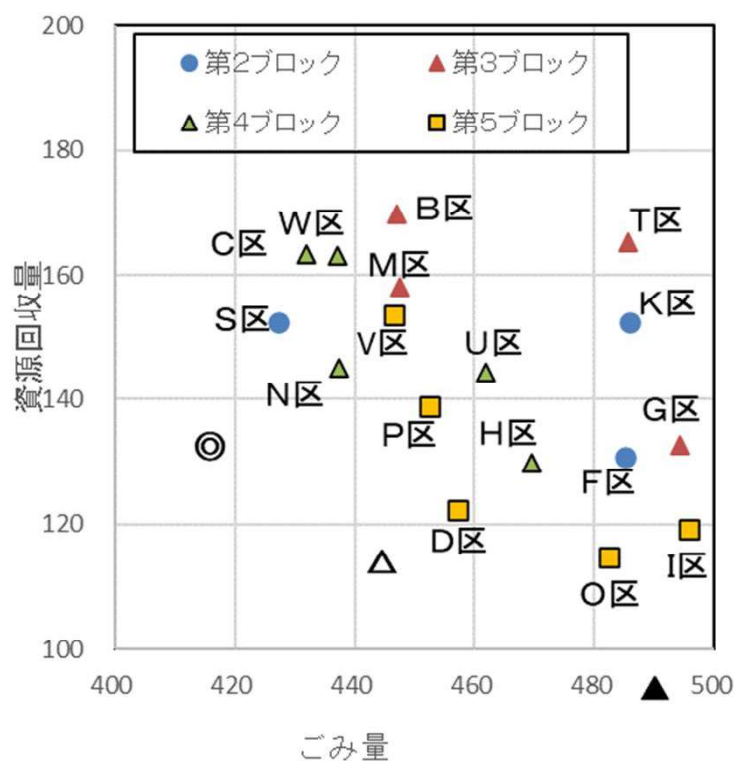


図6 ごみ量と資源回収量

表 1 (b) 可燃ごみの組成 (図 6 中の区)

			資源物を区分している 割合[%]	資源物の区分がない 主な組成[%]
2	▲	F区	8	紙類5.7, その他2.
3	▲	G区	17.2	紙類12.5, 布類3.4
5	▲	I区		素材別分類のみ
5	▲	O区		資源物分類なし。プラ18.3(平成30年度)
3	△	M区	29.6	内訳不明
5	△	V区	20.7	古紙12.2, プラ8.5
5	△	D区	15.9	紙類10.4, 容リプラ4.2
2	◎	S区		資源物分類なし。プラ13.3
4	◎	W区	27.5	容リプラ5.6, 紙類16.2, 繊維4.6
4	◎	C区		資源物分類なし。プラ15, 紙類16.7
4	◎	N区	17.8	紙類10.8, 容リプラ3.5, 繊維類2.7

23区の資源回収量・ごみ組成割合一覧

23区を比較するため、便宜的な基準を設けて作成した資料であり、非公表の数値等が含まれるため、区名をアルファベット表記としている。

令和7年7月22日

資料 2

区名	令和5年度資源回収量 (1人1日あたり/g) 集積所回収・拠点回収・集団回収・ピックアップ回収合算																	ごみ量・組成内訳 (%)																	備考							
	紙類					布類	缶・びん類				ペットボトル	プラ 容器包装	廃色油	電池	家電製品・金属	小型家電	蛍光管	その他	*2 組成調査年度	資源可能物 *3					プラ		可燃ごみ						不燃ごみ						排出不適物・外袋等			
	新聞	雑誌・雑がみ	段ボール	紙パック	紙類計		缶	鉄類	アルミ類	びん										紙類	びん	その他	紙類	缶	びん	ペットボトル	その他	容器包装	左記以外	厨芥類	紙類	プラ	繊維	草木		ゴム類	皮革	その他		金属	ガラス	陶磁器・石
S区	21.7	51.9	65.8	0.31	139.8	1.3	7.8	0.29	1.2	33.9	19.8	19.0	0.04	0.60	0.80	0.11	0.41	1.63	R5	17.6	0.1	0.2	0.5		7.8	2.9	23.6	23.5	4.7	4.4	3.1	0.6	0.1	7.8	0.2	0.0	0.3	0.0	0.9	0.5	1.0	
N区	22.3	31.2	56.2	0.16	109.9	1.1	5.2	0.57	1.4	51.5	14.7	9.5	0.03	0.14	0.15	0.11	0.01	27.79	R6	13.2			3.3		2.5		29.3	16.2				32.8					1.6			1.0	資源可能物:びん・缶・調理器具・ペットボトル(0.5)その他資源物(2.8)	
I区	19.5	35.5	64.7	0.05	119.8	1.2	6.9	0.60	1.5	36.6	14.9	26.4	0.00	0.07	5.94	0.01	0.00	6.28	R4						13.1	3.9	29.1	27.9		7.8	1.9	1.4	12.6	0.4	0.3	0.0	0.0		0.8	0.9	可燃その他:紙おむつ類(8.5)その他可燃物(4.0)	
D区	16.7	23.8	47.6	0.21	88.3	0.5	8.0	0.21	1.2	25.1	15.1	13.4	0.00	0.41	2.65	0.02	0.00	0.77	R3						11.6	2.1	32.0	17.4		5.4	3.6	0.7	24.8			1.3			1.0	可燃その他:紙おむつ(8.8) その他(16.0)		
R区	22.4	28.5	46.8	0.17	97.8	2.1	6.1	0.04	0.6	28.4	11.6	0.1	0.00	0.11	4.74	0.00	0.03	0.56	R1	15.1		0.6		4.2	11.9	3.1	33.2				30.2					0.4			1.4			
M区	17.1	24.3	41.5	0.10	82.9	2.3	7.2	0.12	1.6	28.2	16.5	0.8	0.07	0.20	4.92	0.03	0.08	8.84	R1	13.1	0.2	0.0	0.6	2.4	1.9		33.2				46.4					2.0			0.1	プラ:発砲トレイ(1.9)		
H区	20.4	17.1	37.3	0.17	75.0	0.9	5.6	0.00	1.4	20.2	13.1	2.0	0.04	0.15	0.44	0.02	0.00	0.17	R1						15.6	3.6	32.0	26.1		4.5	3.5	2.6	8.8	1.0	0.4		1.0		1.0		可燃その他:その他(8.3) 廃食油等(0.5) 紙おむつ(4.5)は可燃(紙類)に含む	
C区	23.1	22.7	36.6	0.04	82.4	0.7	5.1	0.49	2.1	22.2	12.9	13.5	0.00	0.44	1.85	0.03	0.15	11.67	R3	12.2			1.0		8.5		39.4	14.5	6.0			16.5				0.8			1.1			
Q区		96.5		0.39	96.9	1.2	8.1	0.04	1.3	25.7	12.8	10.7	0.02	0.40	4.07	0.04	0.15	7.48	R4	11.5		0.7			14.3		27.9	25.0	2.1*	6.2	4.3	*		6.0	0.6**		0.2	**	1.2	*プラ・ゴムの合計 **小型家電以外の不燃物の合計		
L区	21.1	31.4	49.5	0.04	102.0	0.1	7.3	0.00	0.0	27.1	11.5	16.5	0.00	0.19	0.62	0.06	0.11	0.00	R4	15.2		0.5		0.7	12.0	5.3	25.8	14.3		6.2	3.1			14.1			1.0		1.8	可燃その他:その他燃やすごみ(11.0)紙おむつ(3.1)		
G区	21.1	49.7	38.1	0.51	109.4	0.6	6.6	0.07	0.7	19.5	12.6	0.5	0.03	0.00	7.41	0.02	0.00	0.88	R5				29.6				27.8	13.0	2.3	4.2	3.6	0.9		16.6			0.6			1.4		
B区	16.7	28.5	40.0	0.16	85.4	1.6	6.7	0.22	0.5	24.0	9.9	0.0	0.02	0.00	3.73	0.02	0.00	0.77	R6	12.5	0.1	0.2	0.4		0.5	25.8	3.4	20.2	3.4	3.3	1.0	26.7	0.5	0.2		0.2		0.2	1.2			
P区	15.8	26.2	60.4	0.07	102.3	1.4	7.5	0.17	0.8	38.6	15.2	16.9	0.04	0.00	0.00	0.10	0.17	10.18	R4	12.7		0.4		5.4	3.6	1.9	26.6	21.1	9.1	1.0	3.8			11.9			1.4			0.9		
K区	20.7	28.4	38.1	0.03	87.2	3.4	7.6	0.13	0.2	22.2	10.6	15.9	0.03	0.15	7.17	0.05	0.01	8.25	R1	16.2	0.1	0.5	0.4	4.6	5.6	3.4	39.9		4.9		3.2	0.6	18.6			1.1			0.9	可燃その他:可燃その他(11.7)かみおむつ(6.9) 資源その他:繊維類(4.6)		
F区	17.3	36.2	37.7	0.17	91.3	0.8	8.5	0.26	0.4	23.0	11.8	21.1	0.02	0.00	5.91	0.05	0.14	0.00	R3				0.2		15.0	33.8	16.7		4.0	4.6	1.8	19.9			1.1				2.9			
A区	15.7	17.2	34.1	0.24	67.2	7.3	8.0	0.00	0.0	23.3	14.4	10.6	0.02	0.23	4.09	0.10	0.02	8.97	R1						13.4	4.6	37.1	30.3					14.5									
W区	23.1	24.8	35.2	0.09	83.2	1.5	6.6	0.01	0.5	18.9	12.3	13.8	0.02	0.00	8.80	0.00	0.00	6.81	R5						13.3	34.1	24.8		3.6	8.9			6.8			1.4		7.0		可燃その他:紙おむつ(6.8)		
V区	19.2	18.7	34.8	0.01	72.7	3.2	0.2	4.60	3.1	17.8	0.4	0.6	0.01	0.00	8.53	0.01	0.00	19.47	R3	5.7		2.3			13.5	2.6	48.8	11.4		3.7			11.1			1.1						
U区	17.4	20.1	35.8	0.18	73.4	1.6	7.7	0.12	0.8	19.0	12.6	0.2	0.03	0.23	5.54	0.04	0.00	8.51	R6						13.5	36.1	28.8		6.4	3.3	1.0	9.6	0.3	0.5					0.5			
T区	17.8	25.7	35.4	0.10	79.1	3.4	6.7	0.29	0.5	17.7	10.0	19.9	0.06	0.31	6.44	0.02	0.00	0.12	R5	10.8	0.1	0.0	0.6	2.7	3.5		35.9		7.3		15.0			23.6			0.3			0.1		
O区	16.0	13.9	32.5	0.06	62.5	0.3	5.4	0.05	1.3	17.2	12.1	0.0	0.00	0.00	8.87	0.00	0.00	6.84	H30						18.3	31.2	21.9		6.6	7.5			13.8	0.4	0.3							
J区	19.3	24.2	33.0	0.36	76.9	1.5	5.6	0.28	1.2	16.2	11.0	18.2	0.00	0.04	6.91	0.03	0.00	1.08	R6						12.5	32.0	29.3		6.4	6.4	1.0	11.2	0.3	0.1		0.2		0.5				
E区	15.8	19.2	32.1	0.26	67.3	1.1	6.4	0.05	1.1	19.4	12.0	10.9	0.00	0.00	3.94	0.00	0.00	0.11	R2	10.4		1.3			4.2	12.1*	33.6	17.8	*	7.2	5.7	*	5.7			1.0				0.9	*プラ・ゴム・皮革類の合計	
平均*1	19.1	27.2	42.4	0.17	89.3	1.7	6.6	0.37	1.0	25.0	12.5	10.5	0.02	0.16	4.50	0.04	0.06	5.96																								

*1 紙類はQ区の品目別データ(新聞・雑誌・段ボール・紙パック)がないため、左記品目別の平均値はQ区を除外した数値

*2 各区原単位調査の実施年度が異なるため、データの時点は各区により異なる。

*3 資源可能物がグレーになっている区は、資源可能物としての内訳を公表していない。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策資料

1. 本資料の作成方法等について

- ・本資料は、各区の一般廃棄物処理基本計画（以下「一廃計画」という。）における区収集ごみ量の目標設定について、ごみ量の推移と施策内容を確認するため区長会事務局にて作成したものである。
- ・ごみ量の推移は、令和6年度の目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化した「ごみ量指数」で表している。
- ・施策内容は、各区の計画から主な施策を抜粋したものである。
- ・持込ごみについては、目標設定の有無が各区で異なるため、目標設定している区は数値を記載、目標設定していない区は数値を記載していない。

2. グラフ・データについて

- ・各区が掲げるごみ量目標を基に作成している。
- ・一廃計画上で掲げるごみ量目標の設定方法は家庭・事業系ごみあるいは、区収集・持込ごみなどの区分や、総量もしくは1人1日あたりの量など数値指標の設定が区ごとに異なっている。
このため、本資料においては、各区の指標を「1人1日あたりの区収集ごみと持込ごみ」に便宜上、統一して作成した。なお、1人1日あたりのごみ量は以下の定義で換算している。

●区収集ごみ総量で目標を設定している区

①一廃計画に人口を記載している区

記載された人口及び1年間の日数で目標ごみ総量を割る

②一廃計画に人口を記載していない区

東京都総務局公表の当該区人口推計及び1年間の日数で目標ごみ総量を割る

③各年度の目標値が無い区（中間目標・最終年度の2か年のみ目標設定している区など）

公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ総量を便宜的に算定した上で、上記①もしくは②で割る

●1人1日あたりの数量で目標を設定している区

①各年度の目標値が記載されている区

記載のまま本資料に転記

②各年度の目標値が無い区（中間目標・最終年度の2か年のみ目標設定している区など）

公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度の1人1日あたり目標ごみ量を便宜的に算定

3. 23区推計の作成方法との違いについて

- ・各区一廃計画の目標数値（本資料に記載の数値）は、計画期間や推計年度、推計方法が全区異なるため、清掃工場施設整備計画に反映する推計を作成する際は、第1回清掃工場整備計画に関する検証委員会「資料3」にて提示した方法で推計し、あらためて施策を検討している。
よって、本資料に記載の各区一廃計画の目標数値や施策は、「23区推計」とは一致しない。
- ・23区推計の「ステップ2」に反映した、23区一斉実施を想定した3施策の効果について、本資料で示す各区一廃計画の目標値には含まれていない。
- ・23区推計の作成方法との具体的な違いについては、最終ページに掲載の別紙を参照のこと。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策資料 総括表

区名\項目	計画期間		指標基準年度 (R6)における区 収集ごみの1人1 日あたりごみ量 (g)	持込ごみ 目標設定 有無	目標設定・推計の 考え方パターン(※)			
	開始年度	最終年度			A	B	C	D
F区	R7	R16	593.8	有	○			
L区	R3	R12	542.9	有	○			
A区	R3	R14	435.5	有	○			
M区	R5	R9	498.0	有	○			
G区	R3	R12	462.9	有	○			
B区	R3	R12	516.0	有		○		
H区	R3	R12	518.0	有	○			
N区	R4	R13	452.0	有				○
C区	R5	R14	477.0	無			○	
O区	R6	R15	482.3	無				○
I区	R3	R7	475.0	無			○	
P区	R7	R16	495.5	無	○			
U区	R6	R15	499.0	有				○
Q区	R3	R12	440.2	無	○			
D区	R4	R12	451.0	無			○	
V区	R3	R17	490.0	有			○	
J区	R7	R16	421.5	有	○			
R区	R5	R14	518.5	有	○			
W区	H30	R7	453.0	無	○			
E区	H29	R8	453.2	無	○			
S区	H31	R10	470.0	有			○	
K区	R3	R12	463.2	有			○	
T区	R4	R13	449.0	無	○			

※【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：ごみの組成別に過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	F区	計画期間	R7～R16年度	目標最終年度	R16年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

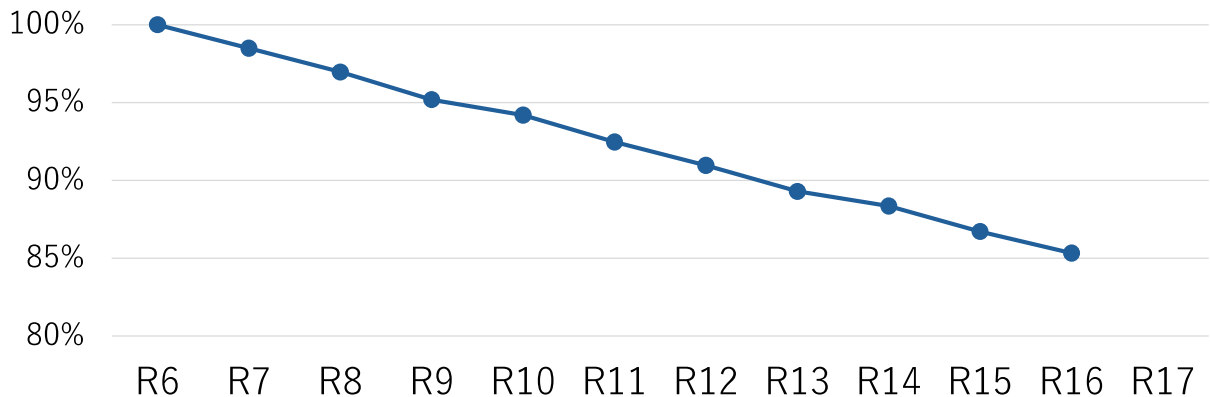
●推移

目標最終年度であるR16年度は、R6年度と比較して85.3%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.5%	97.0%	95.2%	94.2%	92.5%	91.0%	89.3%	88.4%	86.7%	85.3%	
1人1日あたり (g/人日) *1	593.8	584.8	575.7	565.2	559.3	549.0	540.1	530.2	524.6	514.9	506.7	

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	1965.4	1900.7	1817.7	1724.2	1640.7	1544.6	1452.3	1359.3	1277.7	1188.7	1104.2	

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込ごみいずれも、F区の目標ごみ量を、F区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
ごみの発生抑制と、メーカーへ製品開発を促す上流対策の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の発生抑制（食品ロス削減、マイバツクの推進等） ●リユース・修理の推進（リユース食器の利用促進等） ●メーカー等への要請（廃棄物削減効果の見える化等） ●不適正排出の管理（収集時の指導強化等） ●ねずみやカラス等への対策 	
資源循環の更なる促進	<ul style="list-style-type: none"> ●リサイクルと資源回収の拡充（プラスチック循環システム、古着の資源回収拡大等） ●施設および機能の充実（資源回収システム構築、スマートごみ箱の検討等） ●その他の資源循環施策（生ごみのリサイクル、使用済みおむつのリサイクル等） 	<p><家庭ごみ(区収集ごみ)> 令和11年度目標 令和5年度比： 34g/人日(9%) 減 令和16年度目標 令和5年度比： 64g/人日(17.5%) 減</p>
ライフスタイルや事業活動の見直しを促す情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティおよび協働の推進（企業やNPO・大学との連携、区民アイデアコンテストの開催等） ●教育と普及啓発（イベント等を通じた環境学習の推進等） ●情報発信の強化（給水スポット(*)による脱ペットボトル、メディアを通じた啓発活動の推進等） 	<p>【発生抑制率・資源分別率】 <家庭ごみ> 令和4年度比16年度 ・生ごみ 135トン削減 ・紙ごみ混入率 17.6→7.0% ・廃プラ 20%削減</p> <p><事業系ごみ> 令和4年度比16年度 ・生ごみ 3,045トン削減 ・紙ごみ混入率 61.0%→25.0% ・廃プラ 20%削減</p>
事業系ごみの更なる削減	<ul style="list-style-type: none"> ●事業系の紙ごみや生ごみの削減（事業系古紙回収協力事業所制度の検討、事業者と連携した食品ロスの削減、フードシェアリングの推進等） ●事業者への対応（事業用大規模建築物の指導強化、商業施設のエコマーク取得促進、優良な取り組みへの表彰制度等） 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	L区	計画期間	R3～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

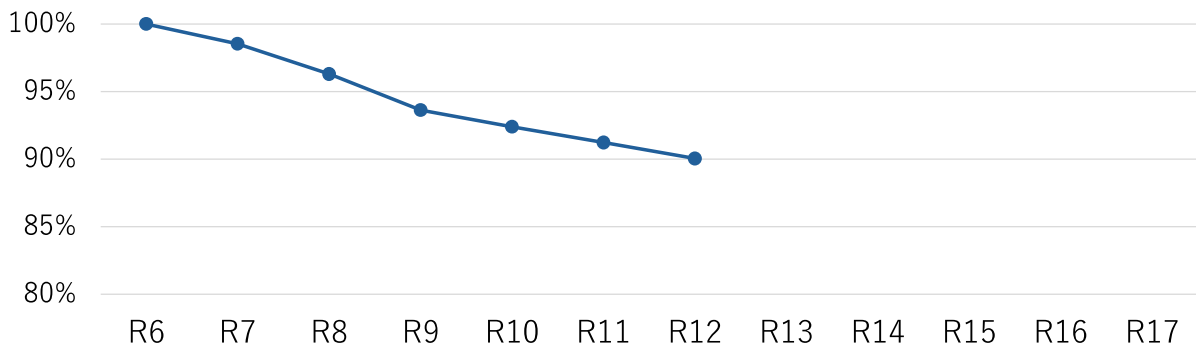
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して90.0%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.5%	96.3%	93.6%	92.4%	91.2%	90.0%					
1人1日あたり (g/人日)*1	542.9	534.9	522.7	508.2	501.5	495.2	488.8					

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日)*1	759.1	708.4	672.9	635.4	608.5	582.7	557.2					

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込ごみいずれも、L区の目標ごみ量をL区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4.目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者への意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信の充実 ●子どもの頃からの意識啓発 ●リサイクル・環境の活動拠点の活用 ●事業者等との連携と働きかけ 	<p><家庭ごみ></p> <p>令和7年度中間目標 令和元年度比： 33.5g/人日(9.5%)減</p> <p>令和12年度目標 令和元年度比： 59.1g/人日(16.8%)減</p> <p>・食品ロス量の半減 ・家庭ごみに含まれる資源物を20%削減</p> <p><事業系ごみ></p> <p>令和7年度中間目標 令和元年度比： 12,353トン/年(15.4%)減</p> <p>令和12年度目標 令和元年度比： 19,448トン/年(24.2%)減</p> <p>・持込ごみや区収集事業系ごみに含まれる資源物の分別を徹底し、30%削減 ※事業用大規模建築物・事業用建築物に対する指導等を進め、持込ごみ中の生ごみを10%削減 ※区収集事業系ごみ5%の削減</p>
発生抑制・再使用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●食品ロスの削減 ●使い捨てプラスチック類の削減 ●再使用（リユース）の促進 	
事業者としての区の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメントシステム（EMS）の運用 ●再生品の利用促進 	
資源分別の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●分別に対する意識の向上と排出指導の充実 ●紙類の分別の徹底 ●プラスチック製容器包装などの分別の徹底 	
事業系ごみの適正処理と循環利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●事業用大規模建築物・事業用建築物への指導・助言の充実 ●小規模事業所への排出指導の充実 ●食品廃棄物の削減 ●資源化ルート等の確保に対する検討 	
多様な資源回収の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●集団回収の促進 ●粗大ごみ等からの資源回収の拡大 ●拠点回収の推進 ●リサイクル推進協力店制度の見直し 	
安心して清潔なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●安心・安全なごみ収集・資源回収のありかたの検討 ●まちの美化の推進 ●集積所の美化の推進 ●有害物・危険物の排出方法の周知徹底 	
交流・連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●区民・事業者等との交流・連携の促進 	
環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●収集・運搬体制における環境負荷の低減 ●中間処理・最終処分における環境負荷の低減 	

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	A区	計画期間	R3～R14年度	目標最終年度	R14年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

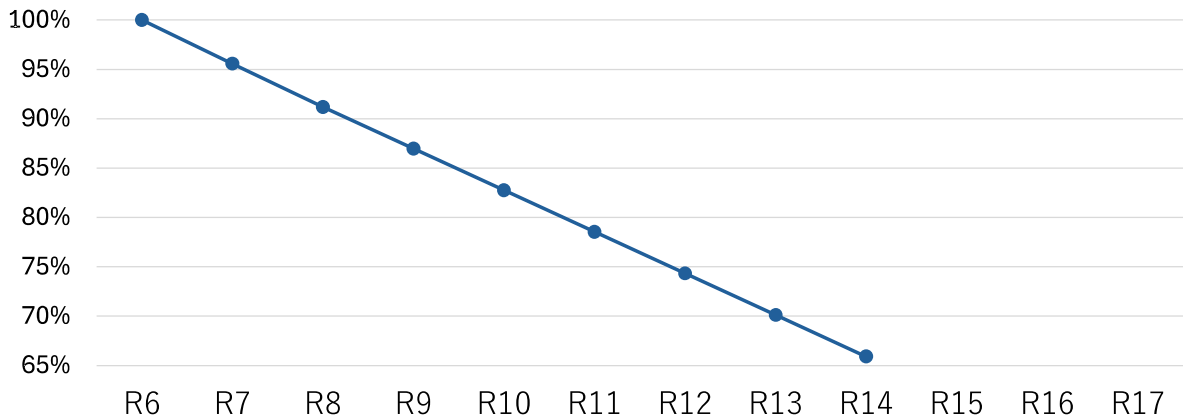
●推移

目標最終年度であるR14年度は、R6年度と比較して65.9%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	95.6%	91.2%	87.0%	82.7%	78.5%	74.3%	70.1%	65.9%			
1人1日あたり (g/人日) *1	435.5	416.2	397.0	378.7	360.3	342.0	323.7	305.3	287.0			

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	942.4	905.9	883.4	858.8	839.0	817.1	795.5	772.9	754.7			

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、A区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量を東京都総務局公表のA区人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
事業系ごみの発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模建築物の所有者の義務の徹底 ●テナントの主体的な取組の促進 ●民間収集への移行促進 	
プラスチックの使用抑制と資源循環	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋プラスチック問題の普及・啓発 ●事業者によるリサイクルの高度化・代替製品開発の支援 ●レジ袋の削減とマイバッグの利用促進 ●ペットボトルの削減とマイボトルの利用促進 ●使い捨てプラスチック削減に向けた区の率先した取組 ●排出袋の改善 ●拡大生産者責任の強化 	<p><区収集ごみ量> 令和14年度目標 令和元年度比： 244.6g/人日(46%)減</p> <p><持込ごみ量> 令和14年度目標 令和元年度比： 総量24,020トン(23.3%)減</p>
食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ●フードドライブの拡大 ●大学等教育機関との連携 ●食べきり協力店の拡充と表彰制度の創設 ●食品ロス削減月間と食品ロス削減の日における普及・啓発 	<p>【食品ロス発生量】 令和14年度目標 令和元年度比： 33.5g/人日(60.4%)減</p>
資源回収の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●古着の拠点回収の拡大 ●陶磁器・ガラス類の資源回収 ●その他再生可能紙の資源回収促進 ●マンションとの協働による資源回収の拡大等 	<p>【プラスチック排出量】 令和14年度目標 令和元年度比： 31.8g/人日(23.9%)減</p>
持続可能な集団回収制度の構築	<ul style="list-style-type: none"> ●集団回収実践団体に対する報奨金の見直し ●古紙価格の変動に対応した回収業者への支援 ●回収業者登録制度の創設 	<p>【資源回収量】 令和14年度目標 令和元年度比： 82.4g/人日(35.1%)増</p>
効果的な普及・啓発と環境学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみの減量・分別の徹底に向けた情報発信 ●清掃協力団体との連携強化 ●次世代を担う環境人材の育成 ●排出実態調査の拡充 	

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	M区	計画期間	R5～R9年度	目標最終年度	R9年度
----	----	------	---------	--------	------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

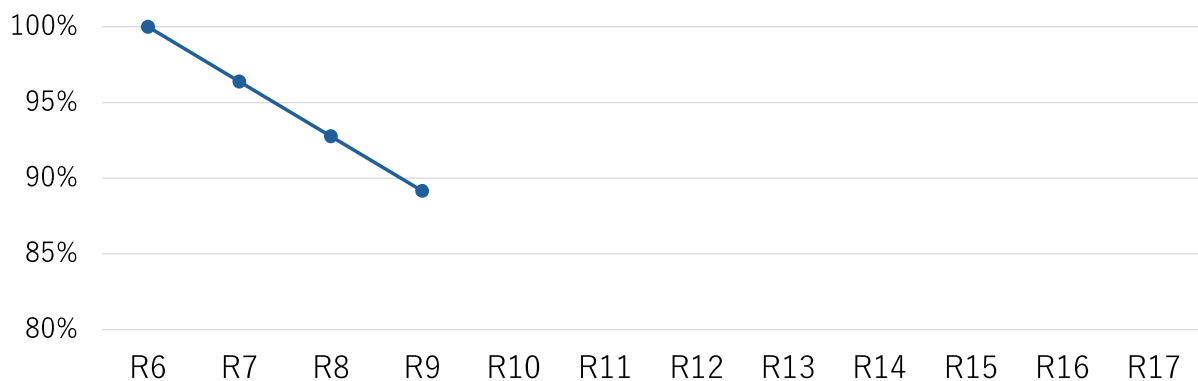
●推移

目標最終年度であるR9年度は、R6年度と比較して89.2%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】 ①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



ごみ量指数	100%	96.4%	92.8%	89.2%								
1人1日あたり (g/人日) *1	498.0	480.0	462.0	444.0								

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	456.0	455.3	454.7	454.0								

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込いずれもM区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者との協働による3Rの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●プラスチックごみ等の発生抑制（リデュース） ●不用品再使用（リユース）の促進 ●区民・事業者・区の連携（3R推進協議会の運営、ポイント制度(*)の拡充等） ●地域で活躍する人材の育成 ●区による資源回収の充実（プラスチック使用製品廃棄物の資源化の拡大等） ●地域主体の資源集団回収の促進 ●ごみの適正な分別と排出の徹底 	<p><区収集ごみ量> 令和9年度目標 令和3年度比： 108g/人日(19.6%)減</p> <p><持込ごみ量> 令和9年度目標 令和3年度比： 4g/人日(0.9%)減</p>
事業者の排出者責任に基づくごみの減量・資源化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者への指導 ●事業系ごみの減量と資源化の促進 	
食品ロス削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●区民・事業者との協働による食品ロス削減の推進（フードドライブの拡充等） ●食品ロス削減に関する普及啓発 ●区としての率先行動（食品廃棄物の有効利用、防災備蓄食品の有効利用等） 	<p>【食品ロス量】 令和9年度目標 令和3年度比： 約2,740トン(約12%)減</p>

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	G区	計画期間	R3～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

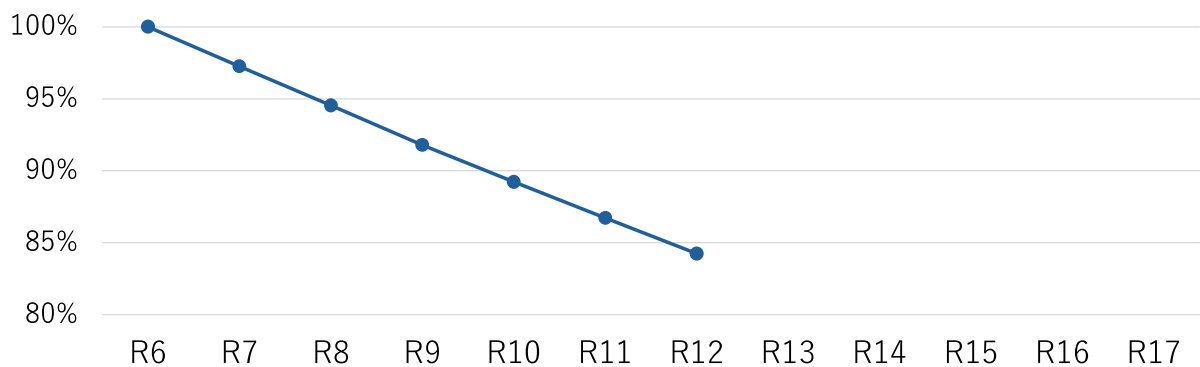
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して84.2%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	97.3%	94.5%	91.8%	89.2%	86.7%	84.2%					
1人1日あたり (g/人日) *1	462.9	450.2	437.6	424.8	412.9	401.4	390.0					

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	243.1	236.6	230.2	223.4	217.9	213.0	208.0					

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込ごみいずれも、G区の目標ごみ量をG区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
食品ロス削減推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ●区の率先した食品ロス削減の取組の推進（職員の食品ロス削減に向けた普及啓発の実施） ●食品ロス削減を促進するための仕組みづくり（フードバンクと連携した食品の再利用、フードドライブの拡充等） 	<p>【食品ロス量】</p> <p>令和7年度中間目標(令和元年度比) 2.4g/人日(9.9%)減</p> <p>令和12年度目標(令和元年度比) 4.9g/人日(20.2%)減</p>
プラスチックごみの削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●区の率先したプラスチックごみ削減の取組の推進 ●プラスチックごみ削減を促進するための仕組みづくり ●プラスチックの分別回収 	<p>【プラスチックごみの発生量】</p> <p>令和7年度中間目標(令和元年度比) 7.4g/人日(12.5%)減</p> <p>令和12年度目標(令和元年度比) 14.8g/人日(25.0%)減</p>
普及啓発・協働の推進	<p>【区民を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報の提供 ●イベント等の開催や環境学習の場の提供 ●地域活動団体等との連携 <p>【事業者を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報の提供 ●事業者との連携 	<p><総排出量></p> <p>令和7年度中間目標 令和元年度比： 121g/人日(12.6%)減</p> <p>令和12年度目標 令和元年度比： 211g/人日(22.0%)減</p>
3Rの推進	<p>【家庭系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）の推進 ●生ごみ減量活動の推進 ●モノを長く使うライフスタイルの促進 ●集団回収、資源回収の推進 <p>【事業系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業所の3R推進 	<p><家庭ごみ量></p> <p>令和7年度中間目標 令和元年度比： 48g/人日(13.4%)減</p> <p>令和12年度目標 令和元年度比： 89g/人日(24.9%)減</p>

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	B区	計画期間	R3～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

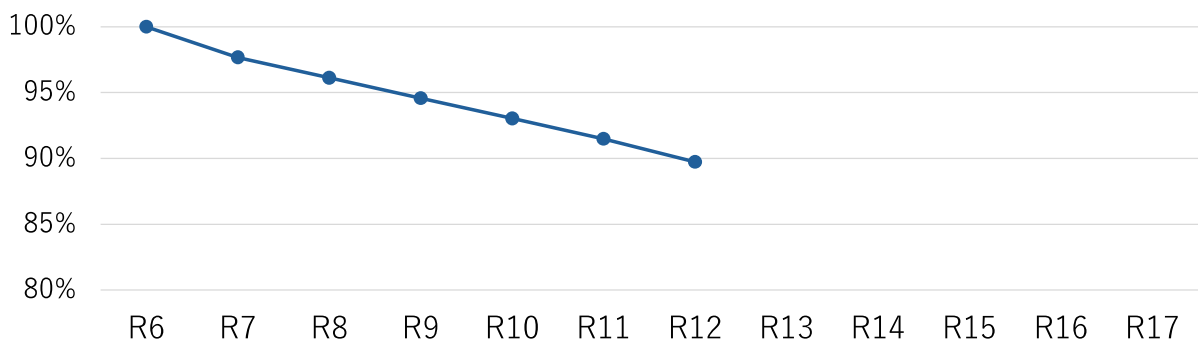
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して89.7%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	97.7%	96.1%	94.6%	93.0%	91.5%	89.7%					
1人1日あたり (g/人日)*1	516.0	504.0	496.0	488.0	480.0	472.0	463.0					

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日)*1	455.3	448.2	440.8	432.2	426.1	418.9	412.8					

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、B区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量を同計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割ったものである。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンB

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者・区の協働による 3R+S の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●パートナーシップの構築（ごみ・資源の「見える化」の推進等） ●環境学習の推進 ●情報の共有化（ごみの出し方の周知等） ●優良事業者の育成（リサイクル協力店制度の見直し等） 	<p><区収集ごみ量> 令和7年度中間目標 令和元年度比： 59g/人日(10.5%)減 令和12年度目標 令和元年度比： 100g/人日(17.8%)減</p>
ごみ減量と資源の有効利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●発生抑制行動の促進（リユース食器の貸出等） ●分別排出の徹底（分別方法に関する冊子配布等） ●資源回収の充実（プラスチックごみの資源化推進等） ●事業者への排出指導 ●排出者責任の徹底 	<p><ごみ総排出量> 令和7年度中間目標 令和元年度比： 93g/人日(7.6%)減 令和12年度目標 令和元年度比： 159g/人日(13.0%)減</p>
食品ロス削減	<ul style="list-style-type: none"> ●食品ロス削減クッキングの日の創設 ●リサイクル協力店制度の見直し ●新たなツールを活用した食品ロス削減の取組の促進 ●フードドライブの実施 	<p>【食品ロス量】 令和7年度中間目標(令和元年度比) 1人あたり13g/人日(25%)減 令和12年度目標 1人あたり26g/人日(50%)減</p>

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	H区	計画期間	R3～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

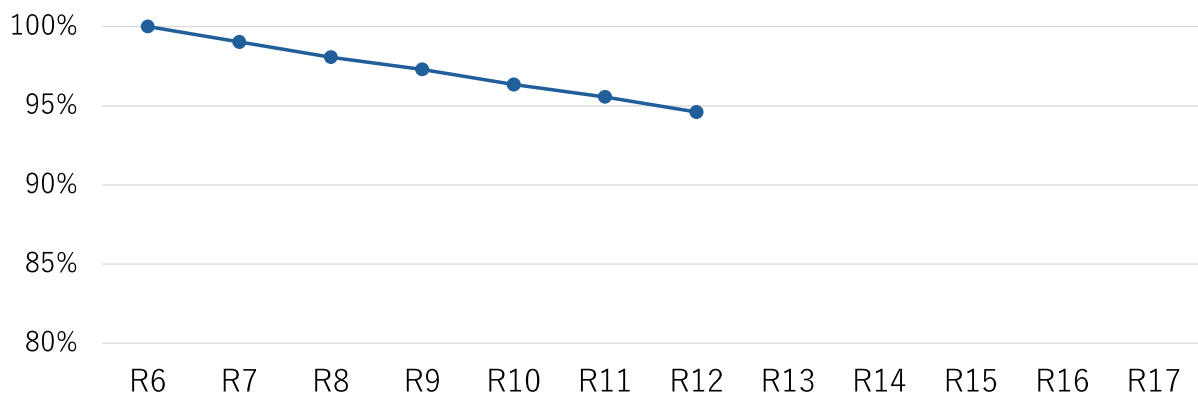
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して94.6%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



ごみ量指数	100%	99.0%	98.1%	97.3%	96.3%	95.6%	94.6%					
1人1日あたり (g/人日) *1	518	513	508	504	499	495	490					

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	229.2	230.4	231.7	233.1	232.9	232.8	232.8					

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、H区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量をH区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者・行政の協働の推進	<p>【区民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ごみの発生・排出抑制の取組 ●資源化への取組 ●排出ルール of 徹底 <p>【事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己処理責任の徹底 ●発生・排出抑制の取組 ●資源化への取組 	
2R（発生抑制・再利用）によるごみ減量の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●3Rから2Rを優先とした啓発活動(*)の強化 ●生ごみの減量と食品ロスの削減（フードドライブの拡充等） ●プラスチックごみの減量（マイバッグ・マイボトル運動の推進等） ●事業系ごみの減量（排出指導・助言等） 	<p><ごみ総排出量></p> <p>令和7年度中間目標 平成30年度比： 44g/人日(6.5%)減</p> <p>令和12年度目標 平成30年度比： 71g/人日(10.5%)減</p>
資源化への取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな資源回収のあり方の検討（既存の資源化事業の周知・広報強化等） ●集団回収への積極的な支援 	<p><区収集ごみ量></p> <p>令和7年度中間目標 平成30年度比： 35g/人日(6.4%)減</p> <p>令和12年度目標 平成30年度比： 58g/人日(10.6%)減</p>
普及啓発と環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●わかりやすい情報提供（情報の「見える化」等） ●環境学習事業による人材育成の推進 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	N区	計画期間	R4～R13年度	目標最終年度	R13年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

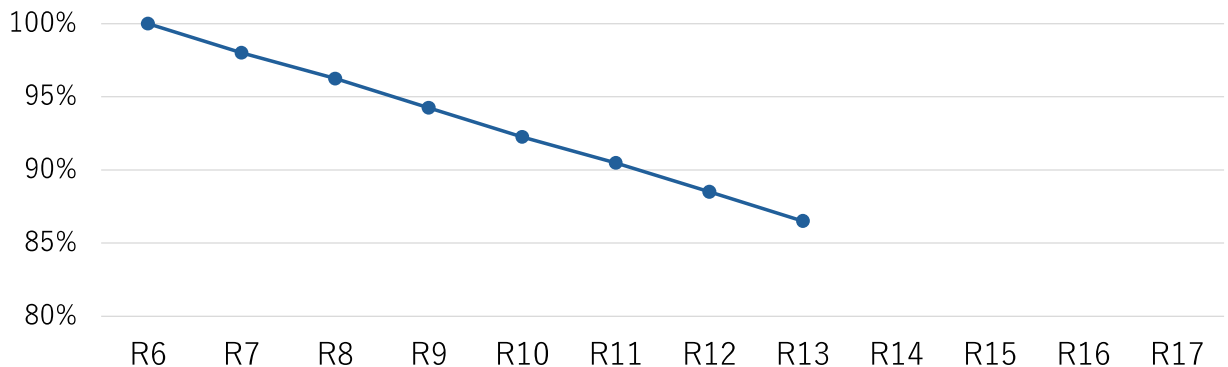
●推移

目標最終年度であるR13年度は、R6年度と比較して86.5%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.0%	96.2%	94.2%	92.3%	90.5%	88.5%	86.5%				
1人1日あたり (g/人日) *1	452.0	443.0	435.0	426.0	417.0	409.0	400.0	391.0				

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	239.6	236.1	231.9	227.8	223.7	219.7	215.8	211.5				

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、N区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量を同計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割ったものである。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンD

排出原単位にR2年度の人口を乗じたごみ総量に、将来人口推計の推移を表す係数を乗じて現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込み推計・設定

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ●食べきり協力店の拡充 ●フードドライブの実施 ●フードシェアリングアプリ等の活用 ●生ごみの減量・堆肥化 ●環境学習 	<p><区収集ごみ量> 令和13年度目標 令和2年度比： 89g/人日(18.5%)減</p>
プラスチックの資源循環	<ul style="list-style-type: none"> ●区民・事業者への働きかけ ●容器包装プラスチックの分別回収の継続 ●発泡トレイ・発泡スチロールのリサイクル ●製品プラスチックの資源化の検討 	
区民・事業者・区の情報共有と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●5Rによるごみ減量の取組や適正処理についての理解促進（区民・事業者への情報発信、こどもに対する環境教育等） ●連携関係の構築（区民・事業者の5R活動を、区のホームページ等で紹介等） 	
リフューズ・リデュース・リユース・リペアの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページでの情報発信 ●エコバッグの持参や簡易包装の推進 ●粗大ごみの中から再利用可能なものを区民に提供する事業(*) 等 	
環境負荷低減効果を考慮したリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●古紙類（新聞、雑誌・雑がみ、段ボール）とびん・缶・ペットボトル、発泡トレイ・発泡スチロール、容器包装プラスチックを毎週1回、資源・ごみ集積所で回収 ●店頭回収など販売事業者による自主的な資源回収の取り組みを促進 等 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	C区	計画期間	R5～R14年度	目標最終年度	R14年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

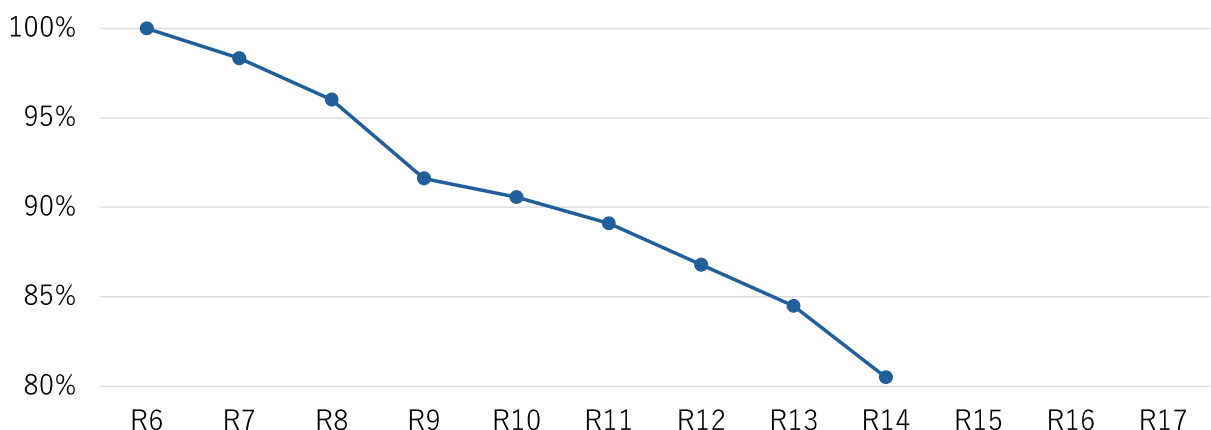
●推移

目標最終年度であるR14年度は、R6年度と比較して80.5%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.3%	96.0%	91.6%	90.6%	89.1%	86.8%	84.5%	80.5%			
1人1日あたり (g/人日) *1	477.0	469.0	458.0	437.0	432.0	425.0	414.0	403.0	384.0			

*1 1人1日あたりのごみ量は、C区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンC

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
ごみの発生抑制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭ごみの発生抑制（生ごみ処理機の購入費用助成、マイバック・マイはし・マイボトルの励行等） ●再使用の促進（粗大ごみからのリユース事業、フリーマーケットの主催・支援等） 	<p><区収集ごみ量> 令和14年度目標 令和3年度比：115g/人日(23%)減</p>
リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●区民の自主的な活動の支援（集団回収事業の推進、区民・リサイクル団体との協働事業推進等） ●区の資源回収事業の推進（リサイクル品目の充実、雑紙回収の促進、小型家電回収の充実と充電式電池への対応） ●環境情報の積極的な発信（ごみ・リサイクル経費の見える化等） 	
事業系ごみ削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●事業系ごみの発生抑制（減量啓発の徹底、製品の長寿命化、簡易包装・詰替え可能な商品の取り扱い等） ●事業系ごみの適正排出の推進（排出指導・助言、立ち入り調査等） ●事業系リサイクルの推進（家庭用インクカートリッジの回収等） 	
ごみの適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●適正排出の推進（各戸収集・早朝収集の実施、高齢者等ふれあい指導の実施等） ●効率的で環境負荷の少ない収集体制（効率的な収集運搬体制の構築等） ●環境教育（スケルトン車両による環境学習等） ●区民参画の推進（廃棄物減量等推進審議会の運営等） 	

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	O区	計画期間	R6～R15年度	目標最終年度	R15年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

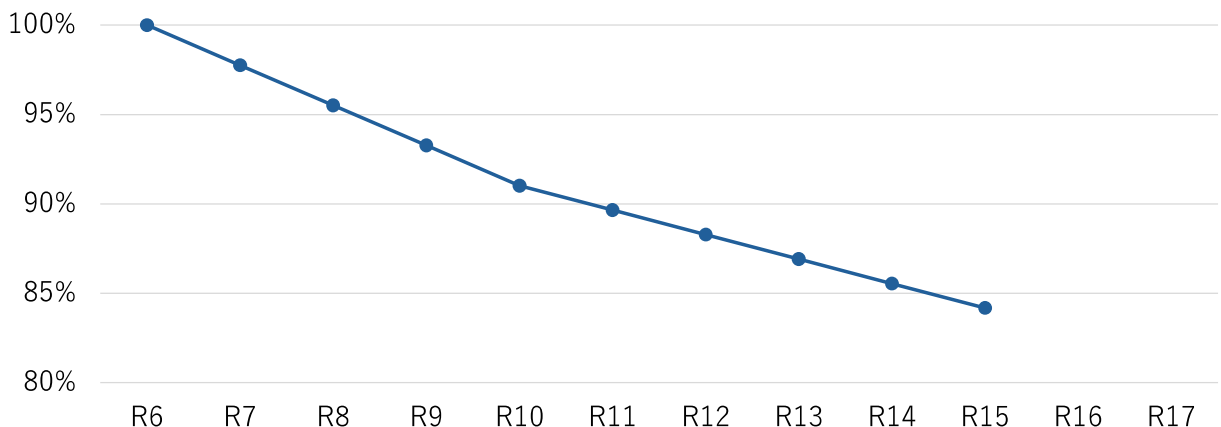
●推移

目標最終年度であるR15年度は、R6年度と比較して84.2%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	97.8%	95.5%	93.3%	91.0%	89.6%	88.3%	86.9%	85.5%	84.2%		
1人1日あたり (g/人日) *1	482.3	471.5	460.7	449.8	439.0	432.4	425.8	419.2	412.6	406.0		

*1 1人1日あたりのごみ量は、O区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンD

排出原単位にR4年度の人口を乗じたごみ総量に、将来人口推計の推移を表す係数を乗じて現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込み推計・設定

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者との連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ●PR・普及啓発の推進（プッシュ型の広報の充実等） ●環境学習の機会の創出 ●環境に配慮した買い物ルール(*)の推進 ●事業者・地域団体との連携 	<p><ごみ・資源量></p> <p>令和10年度中間目標</p> <p>令和4年度比：65g/人日(12.9%)減</p> <p>令和15年度目標</p> <p>令和4年度比：98g/人日(19.4%)減</p>
2Rの推進とリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭ごみの減量（ごみに含まれているリサイクル品目の普及啓発強化等） ●事業系ごみの減量（排出指導の強化等） ●新たな資源回収 	
食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ●啓発活動 ●学習機会の提供 ●未利用食品を回収するフードドライブの実施支援 ●フードシェアリングサービス等の活用 ●区の事業者との連携 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	I区	計画期間	R3～R7年度	目標最終年度	R7年度
----	----	------	---------	--------	------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

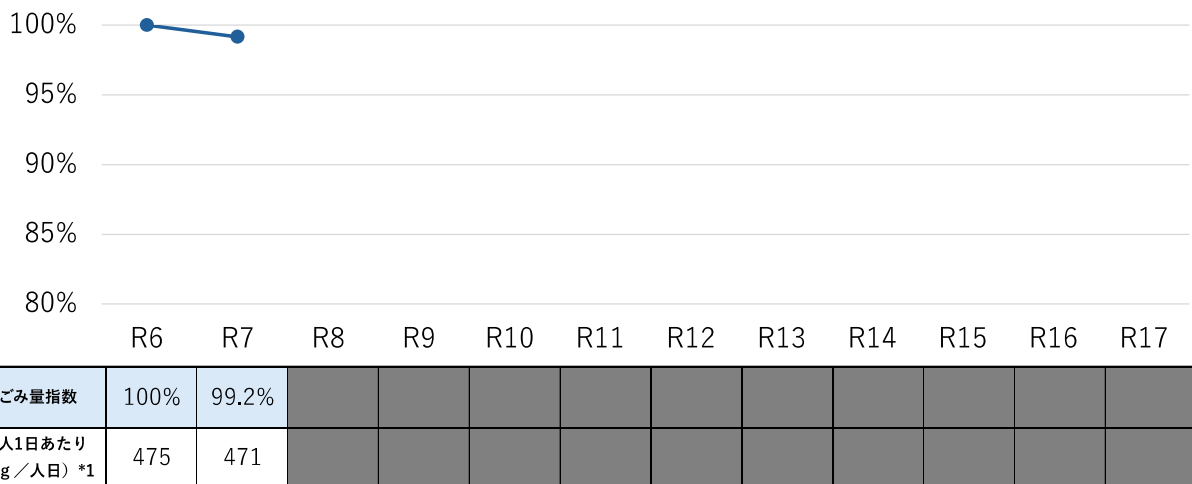
●推移

目標最終年度であるR7年度は、R6年度と比較して99.2%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



*1 1人1日あたりのごみ量は、I区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンC

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
3Rの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●発生抑制のための普及啓発（食品ロスを少なくするための普及啓発等） ●再使用の推進（イベント時のリユース品の配布等） ●区民・事業者への情報提供 ●集団回収の推進（報奨金等による実施団体の支援等） ●多様な資源回収の推進（古着の行政回収（モデル事業）の推進等） ●不燃・粗大ごみの資源化 ●事業系ごみのリサイクルの促進（廃棄物管理責任者講習会の開催等） 	<p><区収集ごみ量> 令和7年度目標 平成30年度比： 19g/人日(3.9%)減</p>
適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●対象別の普及啓発（外国人など） ●高齢者・障がい者への戸別収集・粗大ごみの運び出し収集の実施 	
協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●環境教育・環境学習の推進 ●区民参画・情報交換 ●ふれあい指導の推進 ●関連団体への働きかけ 	
食品ロス削減	<ul style="list-style-type: none"> ●普及啓発（食べきり協力店(*)等） ●未利用食品の有効活用（フードドライブ、地産地消型未利用食品マッチング） 	
プラスチックごみ削減	<ul style="list-style-type: none"> ●環境学習の実施 ●イベント開催時における普及・啓発活動 ●プラスチックごみ削減を促進するための仕組みづくり ●新たなプラスチックのリサイクル方法の検討 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	P区	計画期間	R7～R16年度	目標最終年度	R16年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

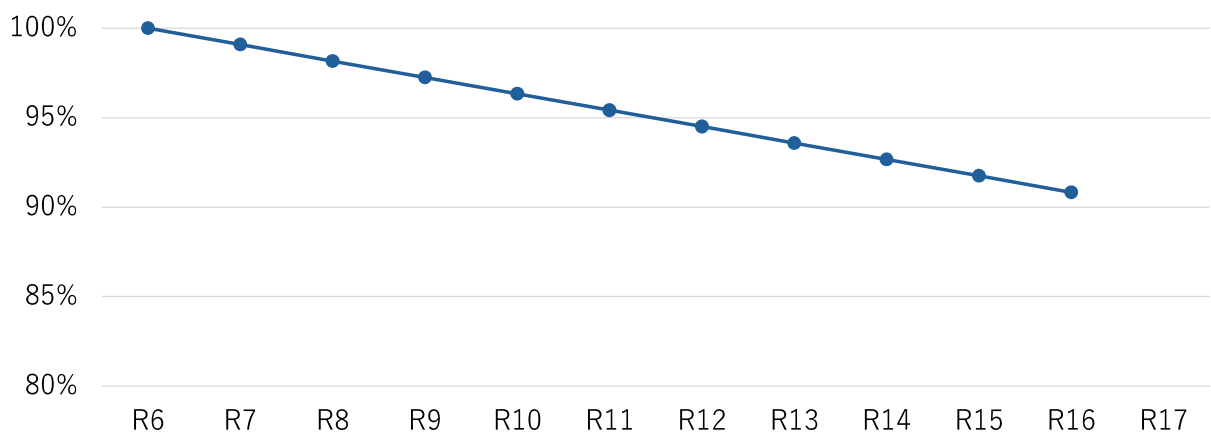
●推移

目標最終年度であるR16年度は、R6年度と比較して90.8%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	99.1%	98.2%	97.2%	96.3%	95.4%	94.5%	93.6%	92.7%	91.7%	90.8%	
1人1日あたり (g/人日) *1	495.5	490.9	486.4	481.8	477.3	472.7	468.2	463.6	459.1	454.5	450.0	

*1 1人1日あたりのごみ量は、P区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者・区の協働による発生抑制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●大学や事業者、地域団体等と連携した啓発事業の展開 ●子育て世帯への啓発拡充、出張講座の拡充 ●区民や地域団体等と連携した各種講座・講師派遣の充実 	<p>< ごみ排出量 > 令和16年度目標 令和5年度比： 50g/人日(10%)減</p>
区民の行動変容を促す多様な普及啓発・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ●保育園・小学校等における環境学習の推進 ●食品ロス・プラ削減・リサイクル推進などの取り組みを行う店舗(*)の登録拡大と利用促進 ●デジタル技術を活用したより効果的な情報発信 ●普及啓発施設でのより効果的な事業展開 ●多様化する地域コミュニティに対応した情報提供 	
持続可能な社会の実現に向けた食品ロス削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●食品ロスに関する多様な情報発信の充実 ●学校、事業者、地域団体等と連携した食品ロス削減の推進 ●食品ロス・食品廃棄物の有効利用 ●事業系の食品廃棄物削減や食品リサイクルの推進 	
ライフスタイルや地域コミュニティの変化に応じた資源循環の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●リユースの推進による地域での資源循環 ●子育て世代を対象としたリユースの推進 ●地域での資源回収活動やごみ減量・リサイクル推進委員会への支援 ●地域団体の取組みに関する情報提供の充実 	
多様な資源循環とサーキュラーエコノミーの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●プラスチックの発生抑制の徹底と分別収集・再資源化による資源循環 ●普及啓発施設でのプラスチック資源循環についての啓発 ●不燃ごみの全量資源化と粗大ごみの資源化の推進 ●可燃ごみに含まれる資源化可能物の資源化と再生製品の利用促進 ●事業者による自主的な資源回収の促進 ●区施設での拠点回収の実施 ●地域における新たな資源循環の検討 	
事業者による資源循環のさらなる推進	<ul style="list-style-type: none"> ●事業系リサイクルシステムの利用促進 ●再利用計画書による効果的なごみ減量対策の分析 ●緑化廃棄物（剪定枝等）の再生利用の促進 ●区施設から排出されるごみの減量・資源化 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	U区	計画期間	R6～R15年度	目標最終年度	R15年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

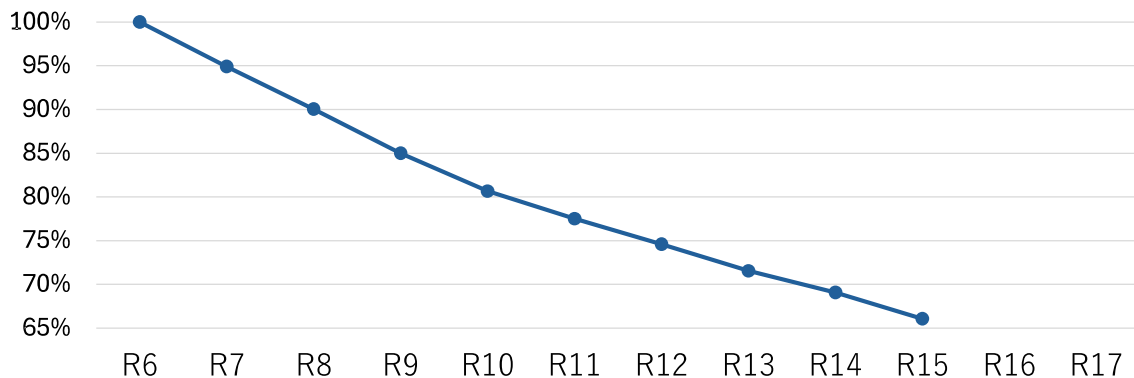
●推移

目標最終年度であるR15年度は、R6年度と比較して66.1%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



ごみ量指数	100%	94.9%	90.0%	85.0%	80.6%	77.5%	74.6%	71.5%	69.1%	66.1%		
1人1日あたり (g/人日) *1	499.0	473.6	449.3	424.0	402.4	386.6	372.1	356.9	344.6	329.6		

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	593.4	573.7	559.9	546.0	533.9	517.4	505.4	486.3	469.7	449.5		

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込ごみいずれも、U区の目標ごみ量を東京都総務局公表のU区人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンD

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

R4年度の排出原単位実績を、将来人口推計に乗じて現状推移のごみ総量を推計し、減量施策による削減率を見込み推計・設定

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
リデュース・リユースを軸とした3Rへの意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ●リデュース・リユースを軸とした3Rの啓発 ●環境学習・環境教育プログラムの充実 	<p><家庭ごみ></p> <p>中間目標（R10年度） 令和4年度比： [区民]100g/人日(25%) 減</p> <p>最終目標（R15年度） 令和4年度比： [区民]150g/人日(37.5%) 減</p>
リデュース・リユース・リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●生ごみの減量、レジ袋・包装の削減、グリーン購入 ●リユース事業の充実と情報発信、事業者への働きかけ ●集団回収の拡大、拠点回収の拡大、分別回収の徹底 	<p><事業系ごみ></p> <p>中間目標（R10年度） 令和4年度比： [従業者]55g/人日(12%) 減</p> <p>最終目標（R15年度） 令和4年度比： [従業者]115g/人日(25%) 減</p>
事業者に対する指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者への指導の徹底 ●事業系ごみのリサイクルの促進 ●拡大生産者責任（EPR）におけるリユース・リサイクルの推進 ●双方向の情報交流 	
適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●分別・排出、収集・運搬、中間処理・最終処分、処理費用負担 	
食品ロス削減推進	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭での食品ロスを把握するための「食品ロス削減啓発冊子」を作成 ●食品ロス削減月間にあわせたポスター等での啓発およびキャンペーンの実施 ●区報、区ホームページ、ごみ分別アプリ等での食品ロスに関する啓発 ●食べきりレシピ、エコレシピの募集、表彰 ●食品ロスに関する区民の学習機会の提供 ●区立小中学校での食品ロス削減に関する出前講座の実施 ●特別区全体での連携した情報発信 ●全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会への参加 	<p>中間目標（R10年度） 令和4年度比：30%減</p> <p>最終目標（R15年度） 令和10年度比：10%減</p>

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	Q区	計画期間	R3～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

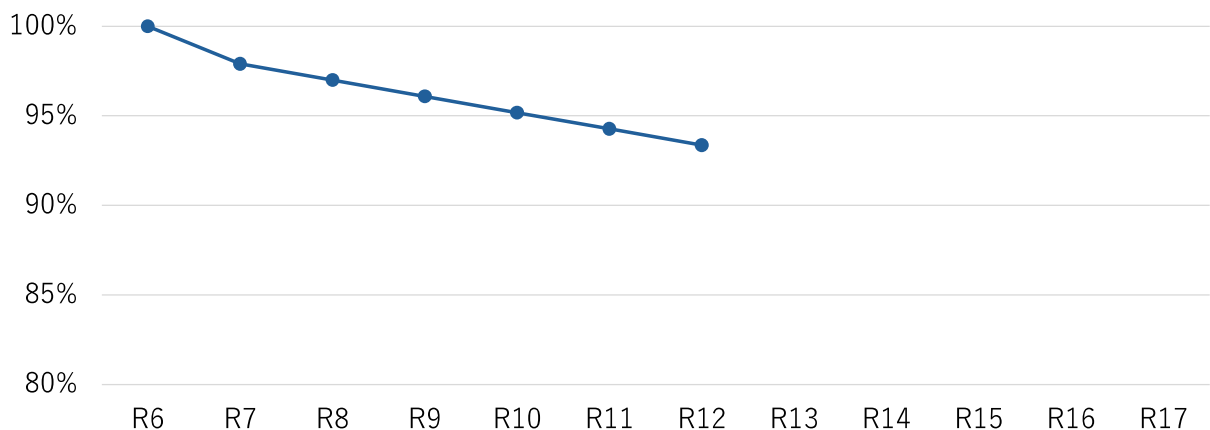
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して93.4%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	97.9%	97.0%	96.1%	95.2%	94.3%	93.4%					
1人1日あたり (g/人日) *1	440.2	431.0	427.0	423.0	419.0	415.0	411.0					

*1 1人1日あたりのごみ量は、Q区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
普及啓発の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●イメージキャラクターを活用したごみ減量普及啓発 ●ごみ減量出前講座、環境教育の充実 ●「資源とごみの分け方・出し方」リーフレットの充実 ●スマートフォンのアプリケーション等を活用した情報発信、啓発 ●リサイクル展示室の運営 ●区ホームページや情報誌等広報媒体の充実 	
食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭、事業所における食品ロス削減のための啓発 ●区内大学等と連携した食品ロス削減の取組 ●飲食店・食品小売店等と連携した食品ロス削減対策事業 ●フードドライブ事業の実施 	
ごみと資源の発生抑制に関する啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●プラスチックの発生抑制に関する啓発 ●資源としての「雑がみ」の回収促進 ●リユース関連情報の配信 	<p><区収集ごみ> 令和7年度中間目標 令和2年度比： 46g/人日(9.6%)減</p>
分別の徹底・適正排出	<ul style="list-style-type: none"> ●排出指導、不法投棄対策 ●危険物・有害物の分別徹底、混入防止 ●集合住宅への指導徹底 	<p>令和12年度目標 令和2年度比： 66g/人日(13.8%)減</p>
効率的な資源化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみとして収集した物の資源化 ●拠点回収の促進 ●びん・缶・ペットボトルの回収 ●自動回収機によるペットボトルの回収 ●集団回収に対する支援の推進 ●資源の持ち去り対策の強化について ●プラスチック資源の回収・リサイクル 	
事業系ごみの減量と適正排出の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●事業系廃棄物収集届出制度の推進 ●大規模事業用建築物への立ち入り調査 ●排出指導の徹底 ●一般廃棄物処理業者等に対する適正処理の推進 	

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	D区	計画期間	R4～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

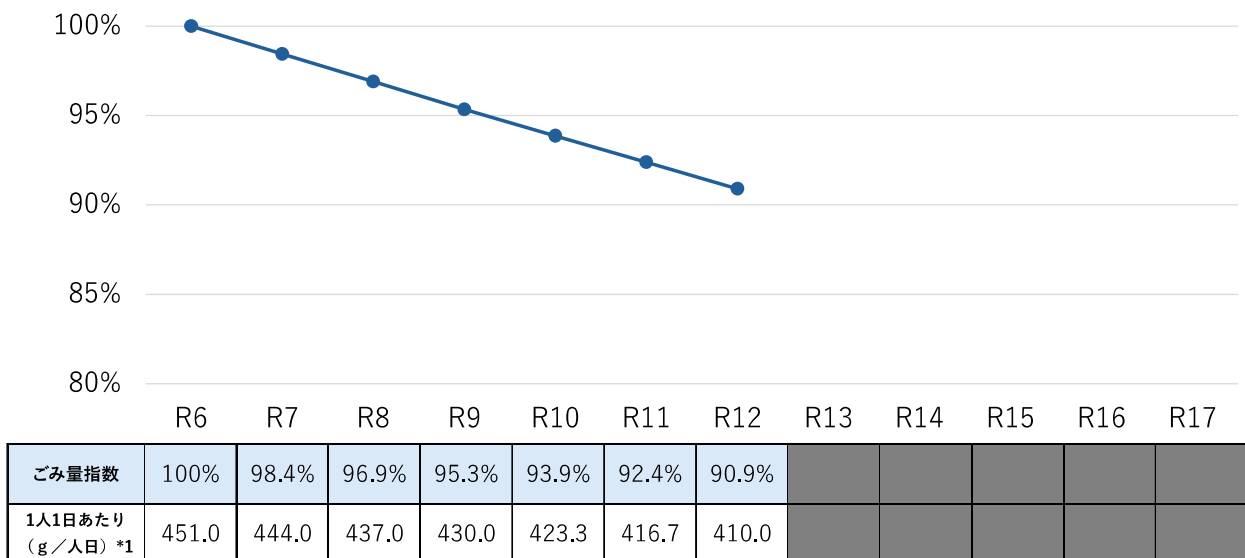
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して90.9%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



*1 1人1日あたりのごみ量は、D区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンC

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
ごみ・資源の発生抑制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 2Rの推進 ● プラスチックごみの削減（例：マイボトル利用促進等） ● 生ごみ対策 	
更なる資源化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃食油等の拠点回収の拡充 ● 粗大・不燃ごみ、小型家電の資源化 ● プラスチック資源化の推進 ● 事業系ごみの資源化の推進 	<p><区収集ごみ量></p> <p>令和6年度中間目標 令和2年度比： 28g/人日(5.8%)減</p> <p>令和9年度中間目標 令和2年度比： 49g/人日(10.2%)減</p> <p>令和12年度目標 令和2年度比： 69g/人日(14.4%)減</p>
区民、事業者等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団回収の支援 ● 地域団体（町会・自治会）、集合住宅等との連携 ● 事業者の自主的な取組の促進（例：自主的な資源の店頭回収の周知等） ● みどりのリサイクルの推進 	
多様な媒体を活用した啓発活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報誌、区ホームページ、SNS等を活用した啓発活動 ● 環境学習の充実 ● 外国人居住者等対策 ● ごみ・資源、清掃工場の運営状況の見える化 	
食品ロス削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 「食べきり」レシピ等による広報活動 ● 紙芝居・絵本等を活用した環境学習（家庭系）の実施 ● 宴会時の「食べきり」啓発物の作成・配布 ● フードドライブの拡充（家庭系） ● 食べきり協力店(*)の拡充（事業系） ● フードシェアリング事業の促進（事業系） 	<p>【家庭ごみにおける食品ロス量】 (令和元年度比)</p> <p>令和6年度中間目標 282トン(11.4%)減</p> <p>令和9年度中間目標 582トン(23.4%)減</p> <p>令和12年度目標 882トン(35.5%)減</p>

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	V区	計画期間	R3～R17年度	目標最終年度	R17年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

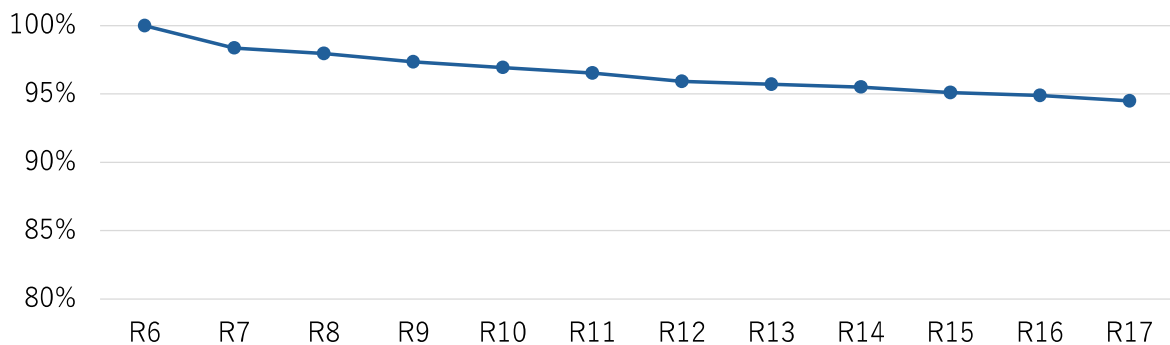
●推移

目標最終年度であるR17年度は、R6年度と比較して94.5%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.4%	98.0%	97.3%	96.9%	96.5%	95.9%	95.7%	95.5%	95.1%	94.9%	94.5%
1人1日あたり (g/人日) *1	490	482	480	477	475	473	470	469	468	466	465	463

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	371.4	390.4	389.9	388.4	389.0	388.6	388.2	387.0	387.9	387.7	387.6	386.4

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、V区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量をV区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンC

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
リデュース・リユースの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●リデュース・リユース施策の継続的な展開（リユース食器の貸出等） ●区民・事業者への情報発信 ●事業者との連携によるリデュース・リユースの推進（食べきり協力店への登録、フードレスキューの実施、アプリの活用等） ●区民の活動支援と連携の場の創出（地域イベント等での連携等） 	
質の高いリサイクルの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●プラスチック製容器包装分別収集の導入検討 ●事業者の自主的取組みの促進（自主回収に取組む事業者の情報発信等） ●事業系ごみのリサイクルの促進（講習会や立ち入り検査の促進、排出指導の徹底等） ●集団回収の積極的活用 	<p>< 区収集ごみ量 ></p> <p>令和7年度中間目標 令和元年度比：46g/人日(8.7%)減</p> <p>令和12年度中間目標 令和元年度比：58g/人日(11.0%)減</p> <p>令和17年度目標 令和元年度比：65g/人日(12.3%)減</p>
安定的で適正なごみ処理	<ul style="list-style-type: none"> ●適正分別・適正排出の徹底 ●有害物質等の適正処理 ●事業所への情報提供・指導 ●ごみ収集有料化等の調査・検討 ●災害廃棄物対策 	
食品ロス削減	<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信・普及啓発の推進 ●販売店や飲食店との協力体制の充実 ●大学や教育機関との連携 ●関係団体との連携 	

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	J区	計画期間	R7～R16年度	目標最終年度	R16年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

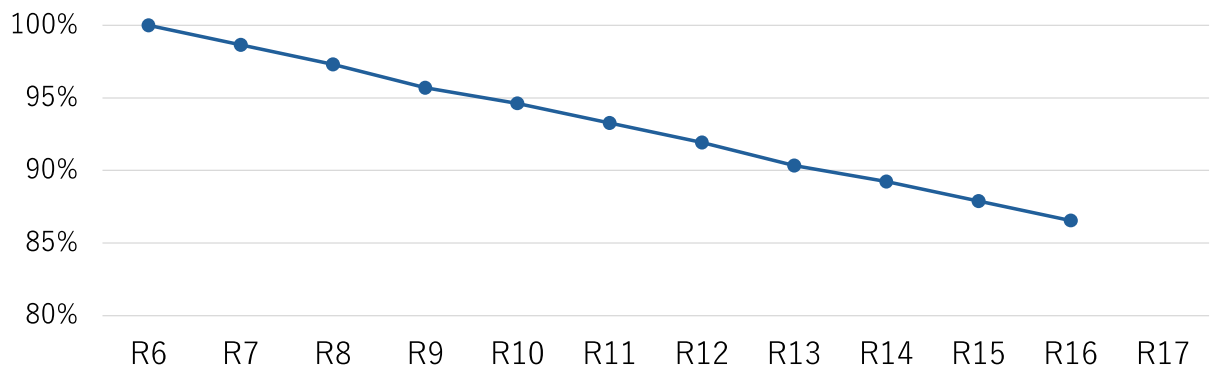
●推移

目標最終年度であるR16年度は、R6年度と比較して86.6%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.7%	97.3%	96.0%	94.6%	93.3%	91.9%	90.6%	89.2%	87.9%	86.6%	
1人1日あたり (g/人日) *1	421.5	415.8	410.2	404.5	398.8	393.2	387.5	381.8	376.2	370.5	364.8	

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	127.4	125.6	123.9	122.2	121.2	119.8	118.4	116.8	115.9	114.8	113.6	

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込ごみいずれも、J区の目標ごみ量をJ区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
区民・事業者・区の協働による3Rの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●区民主体の集団回収への支援事業の拡充 ●区民へのきめ細かい情報提供・情報の「見える」化の実施 ●環境学習などによる人材育成の推進 ●施設(*)を拠点とするリサイクル活動の支援 ●事業者等の自主的な取組みの推進 	
品目別の減量化と資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ●生ごみの減量の推進 ●雑がみの資源化の充実 ●不燃ごみ・粗大ごみの資源化の推進 ●プラスチックの資源循環の促進 ●民間事業者との連携による3Rの推進 	<p><区収集ごみ量> 令和16年度目標 令和5年度比：62g(14.5%)減</p> <p><事業系ごみ量> 令和16年度目標 令和5年度比： 1,644トン(9.8%)減</p>
事業系ごみの減量	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者の規模や業種に合わせた排出指導の実施 ●効果的な排出指導体制の構築 ●優良事業者表彰制度の創設 ●事業者のごみ減量の取組みに対する支援 ●事業者の排出実態の把握 	
食品ロスの削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●教育及び学習の振興、普及活動 ●食品関連事業者等の取組みに対する支援 ●表彰、実態調査等の実施、推進について ●先進的な取組みの情報収集及び提供 ●未利用食品等を提供するための活動の支援 	<p>【食品ロス削減量】（参考値） 令和16年度目標 令和5年度比： 6.5g/人日(20%)減</p>

(*) 区が特定出来る施設名称は「施設」で表記している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	R区	計画期間	R5～R14年度	目標最終年度	R14年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

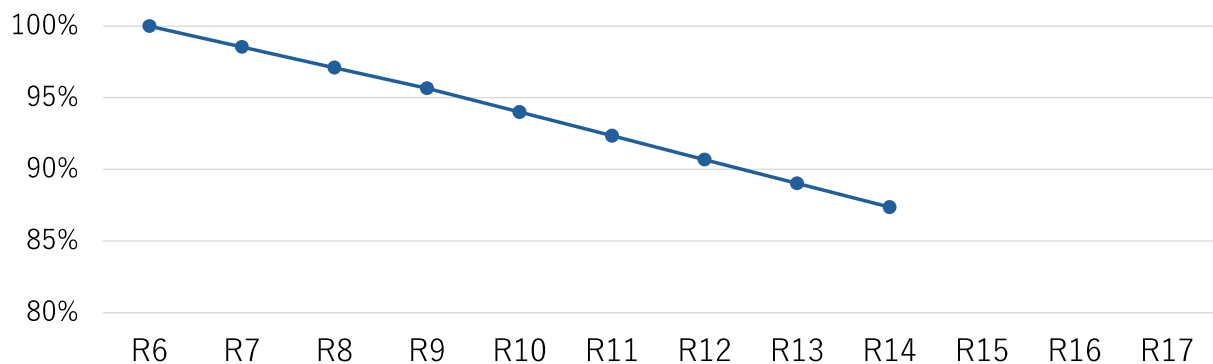
●推移

目標最終年度であるR14年度は、R6年度と比較して87.4%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.6%	97.1%	95.7%	94.0%	92.3%	90.7%	89.0%	87.4%			
1人1日あたり (g/人日) *1	518.5	511.0	503.5	496.0	487.4	478.8	470.2	461.6	453.0			

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	117.0	116.3	115.7	115.0	114.2	113.4	112.6	111.8	111.0			

*1 1人1日あたりのごみ量は、区収集・持込いずれもR区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
食品ロス削減	<ul style="list-style-type: none"> ●教育及び学習の振興、普及活動 ●食品の関連事業者等の取り組みに対する支援（食べきり協力店(*)制度等) ●先進的な取り組みの情報収集及び提供 ●未利用食品等を提供するための活動の支援等（フードドライブ等) 	【食品ロス削減量】 令和3年度比： 令和9年度中間目標 2.3g/人日(10.2%)減 令和14年度目標 4.5g/人日(19.9%)減
プラスチック資源循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●廃プラスチックの資源化に向けたモデル回収事業の検証と拡大 ●事業者と連携したプラスチックごみ減少の推進 ●啓発の強化 	【可燃ごみに含まれるプラ削減量】 令和3年度比： 令和9年度中間目標 10.1g/人日(12.5%)減 令和14年度目標 20.2g/人日(約25%)減
環境学習の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●区民が楽しめるイベントの開催 等 	＜区収集ごみ＞ 令和9年度中間目標 令和3年度比： 45g/人日(8.3%)減 令和14年度目標 令和3年度比： 88g/人日(16.3%)減 ＜持込ごみ＞ 令和9年度中間目標 令和3年度比： 4g/人日(3.4%)減 令和14年度目標 令和3年度比： 8g/人日(6.7%)減
家庭ごみ・事業系ごみの削減	<ul style="list-style-type: none"> ●生ごみ減量の施策（例：生ごみ処理機等購入費助成等) ●事業系ごみの資源化可能物の資源化の促進 	
再使用（リユース）の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●フリーマーケット等による再使用の取り組み ●再使用の講座の開催 ●不用品情報交換制度 等 	
資源回収方法の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●不燃・粗大ごみからの資源回収の推進 ●資源回収方法の拡充及び検討 ●集団回収等の自主的なリサイクル活動の推進 	
資源化の更なる徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●区民への効果的な周知の実施 等 	
事業系ごみのリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●エコノミックリサイクルの推進 等 	
区民・事業者・行政の相互理解と協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根差した参画と協働の推進（3Rリーダーの養成等) ●事業者への効果的な啓発活動 等 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	W区	計画期間	H30～R7年度	目標最終年度	R7年度
----	----	------	----------	--------	------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

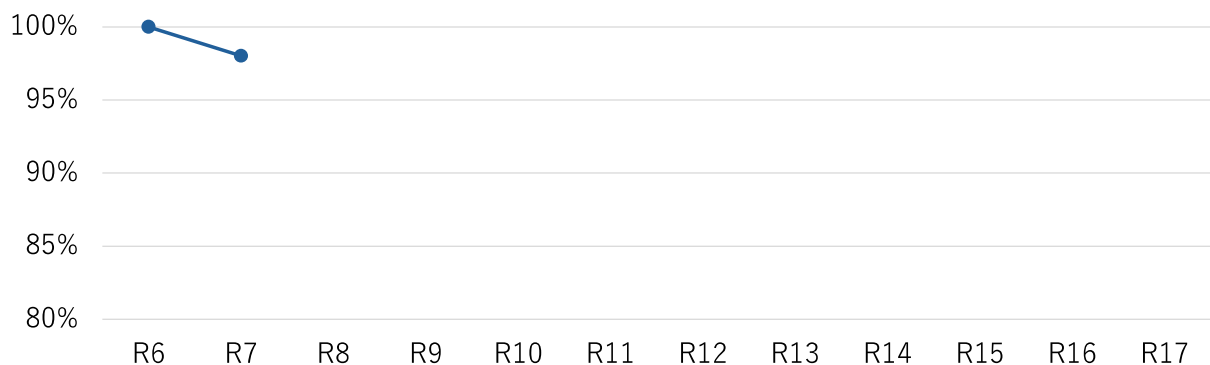
●推移

目標最終年度であるR7年度は、R6年度と比較して98.0%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.0%										
1人1日あたり (g/人日) *1	453.0	444.0										

*1 1人1日あたりのごみ量は、W区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
情報発信・普及啓発計画	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもから大人までごみの減量・リサイクルに関する共通言語(*)の展開 ●情報発信媒体の充実 ●集中的な情報発信の実施 	<p><区収集ごみ量> 令和7年度目標 令和3年度比： 36.1g/人日(7.5%)減</p>
発生抑制計画	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭系生ごみ減量・資源化の促進（イベントでのフードドライブの実施等） ●事業系生ごみ減量の促進（食べ残し削減キャンペーン等） ●施設(*)を拠点とした活動の継続 	
再生利用促進計画	<ul style="list-style-type: none"> ●トレイ・ボトル類の分別回収の区内全域への拡大 ●古紙類の分別回収の徹底 ●不燃・粗大ごみからの資源回収 	
収集運搬計画	<ul style="list-style-type: none"> ●体温計・血圧計等の水銀含有廃棄物の回収ルートの確立 ●事業系ごみの適正排出指導 ●集積所での排出指導の徹底 ●収集・運搬の効率化 	

(*) 区が特定出来る事業は、一般的な表現に一部変更、施設名称は「施設」で表記している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	E区	計画期間	H29～R8年度	目標最終年度	R8年度
----	----	------	----------	--------	------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

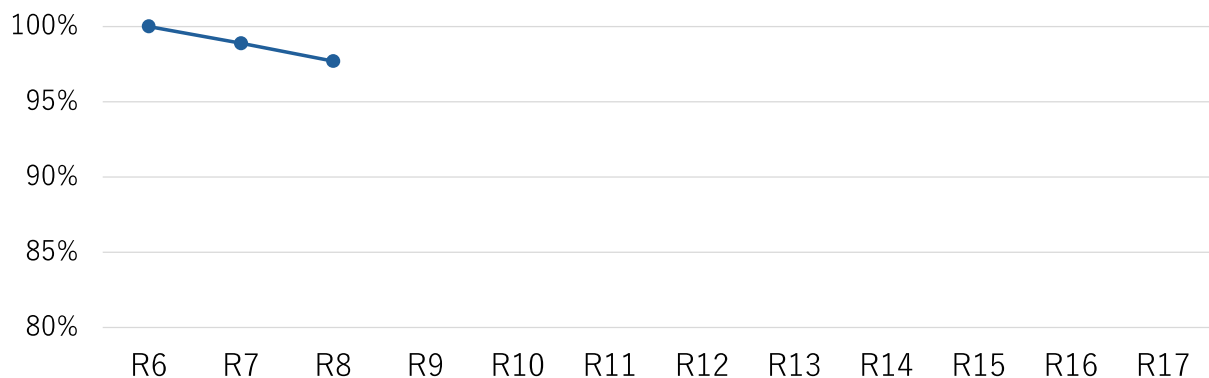
●推移

目標最終年度であるR8年度は、R6年度と比較して97.7%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.9%	97.7%									
1人1日あたり (g/人日)*1	453.2	448.1	442.7									

*1 1人1日あたりのごみ量は、E区の目標ごみ量をE区一廃計画で公表されている人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
ごみの発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> ●食品ロスの削減（フードドライブ事業等） ●生ごみの発生抑制・資源化（生ごみ処理機への助成の拡充等） ●販売店や商店会等との連携 ●区立施設でのごみの発生抑制 	<p style="text-align: center;">< 区収集ごみ収集量 ></p> <p style="text-align: center;">令和8年度目標</p> <p style="text-align: center;">平成27年度比： 57g/人日(11.4%)減</p>
再使用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●不要家具等の再使用 	
資源回収の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●集団回収事業への参加促進 ●事業系ごみの資源化の促進（リサイクル回収支援事業(*)等） ●事業者回収の利用促進（店頭回収の周知等） ●不燃ごみの資源化（収集不燃ごみの金属類の分別等） ●資源回収体制の充実 ●区立施設での再生利用の推進（古紙や生ごみの資源化等） 	
適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●排出ルールの徹底（資源とごみの分別の周知徹底） ●事業系ごみ排出事業者に対する指導 	
普及啓発や環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●広報・PR活動、環境教育の充実（体験型学習の充実等） 	
区民・事業者との協働	<ul style="list-style-type: none"> ●区民活動への支援の充実 ●事業者活動の活性化への支援（ごみ減量・リサイクル推進に関する優良事例の周知等） 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	S区	計画期間	H31～R10年度	目標最終年度	R10年度
----	----	------	-----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

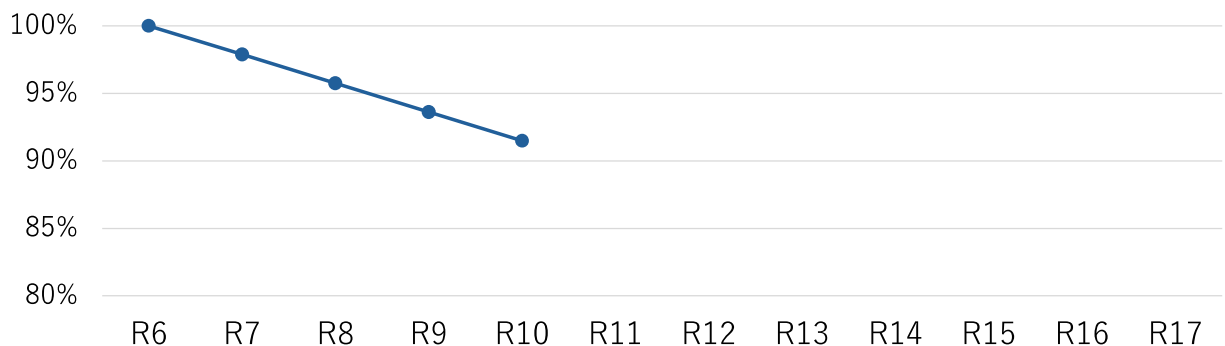
●推移

目標最終年度であるR10年度は、R6年度と比較して91.5%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	97.9%	95.7%	93.6%	91.5%							
1人1日あたり (g/人日)*1	470	460	450	440	430							

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日)*1	166.5	165.9	166.0	165.5	166.0							

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、S区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量を東京都総務局公表のS区人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンC

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：ごみの組成別に過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
<p>廃棄物減量の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭におけるごみ減量の取組み（食品ロス削減のための取組み、生ごみ処理機・コンポスト化容器の購入費助成等） ●事業者におけるごみ減量と資源化の取組み（区主催イベントでの簡易包装等） ●ライフスタイルの見直しによるごみ減量の取組み（使い捨てプラスチック削減に向けた啓発） ●ごみ減量やリサイクルに関する意識啓発（イベントにおける周知、不用品家具の展示販売等） ●若年層の単身世帯や外国人等へのごみの分別意識の普及啓発（ごみ分別アプリやSNS等による情報発信等） ●ごみ減量施策の情報発信の強化（ごみ分別アプリ、SNSの活用等） ●区民・事業者・大学等の地域団体との連携による取組み 	<p><区収集ごみ量> 令和10年度目標 平成29年度比： 109.9g/人日(20.4%)減</p>
<p>持続可能な資源利用への転換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭ごみからの資源の分別徹底に向けた取組み（紙資源分別バッグの活用、資源分別マニュアル(*)を活用した周知等） ●集団回収活動の活性化と支援策の拡充 ●資源持去り対策の強化 ●家庭から出る資源を区内のリサイクル関連事業者が買い取る事業(*)の実施事業者数の拡大等 ●新たな資源化品目の検討（プラスチック分別回収の実施） ●粗大ごみのリユース「繰り返し使う」施策 ●環境教育・環境学習の推進と人材育成 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	K区	計画期間	R3～R12年度	目標最終年度	R12年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

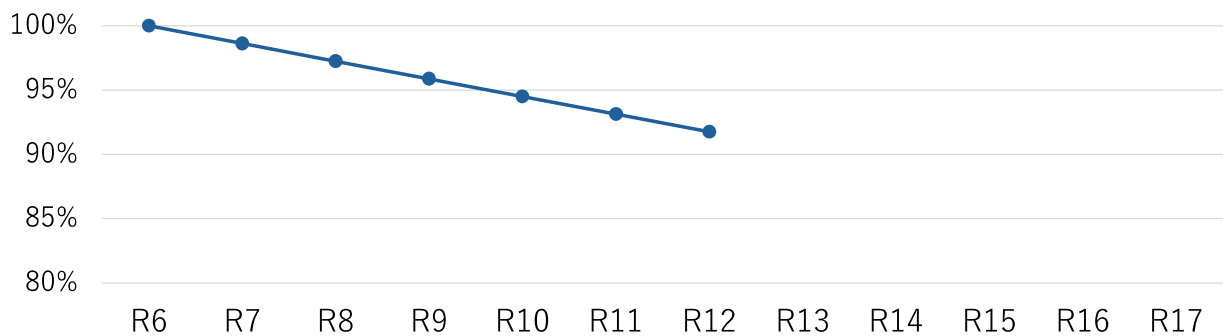
●推移

目標最終年度であるR12年度は、R6年度と比較して91.8%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ごみ量指数	100%	98.6%	97.3%	95.9%	94.5%	93.1%	91.8%					
1人1日あたり (g/人日) *1	463.2	456.8	450.5	444.1	437.7	431.4	425.0					

(持込ごみの目標設定) ※計画上目標設定されている区のみ記載

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1人1日あたり (g/人日) *1	142.9	142.3	142.4	142.2	142.7	143.2	143.1					

*1 区収集ごみの1人1日あたりのごみ量は、K区一廃計画に記載されている数値を基にしており、持込ごみの1人1日あたりのごみ量は、目標ごみ量を東京都総務局公表のK区人口推計及び1年間の日数で割った数値である。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンC

【目標値設定・推計の考え方パターン】

- A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定
- B：ごみの組成別に過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定
- C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定
- D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
食品ロス削減に向けた取組み	●アクションプランの普及啓発	<p><家庭ごみ量> 令和12年度目標 令和元年度比： 70g/人日(14.1%)減</p> <p><事業系ごみ量> 令和12年度目標 令和元年度比： 51トン減/年(0.2%)減</p>
普及啓発の充実	●環境学習、情報提供の充実 (子ども・大人を対象とした環境学習の充実、アプリ・SNSを活用した情報提供、啓発イベントの実施等)	
再使用の推進	●不用品の展示、販売、利用の促進 (不用品の登録・情報交換制度、洋服交換会の実施等)	
事業所から出るごみの発生抑制・再使用の推進	●区の率先した活動(区の取り組み事例の周知等) ●事業者への啓発活動(ごみ減量・リサイクル推進協議会の参加団体等への説明、広報紙・パンフレットの配付等)	
徹底的なプラスチックの資源循環	●プラスチック製容器包装の分別徹底 ●ボトル to ボトルの推進 等	
雑紙の資源化に向けた取組み	●ルールの普及啓発の徹底(資源化可能な雑紙の分別・排出指導等) ●雑紙回収チャレンジの実施 等	
新たな資源化の推進	●燃やさないごみ・粗大ごみの資源化 ●区による資源回収の推進 等	
集団回収の取組み支援	●各団体の取り組み事例の紹介・集団回収業者の確保と支援 等	
事業者による資源の自主回収の促進	●環境に配慮した取り組みを行っている事業者の認定制度 等	
ごみ処理事業経費や減量効果の「見える化」の実施	●ホームページ等での積極的な情報提供	

23区一般廃棄物処理基本計画におけるごみ量の推移・施策

区名	T区	計画期間	R4～R13年度	目標最終年度	R13年度
----	----	------	----------	--------	-------

1. R6年度を基準としたごみ量指数について

●前提

ごみ量指数は、各区における区収集ごみ（1人1日あたり）の令和6年度目標数値を100%とし、令和7年度以降の目標最終年度までの推移を指数化したものである。

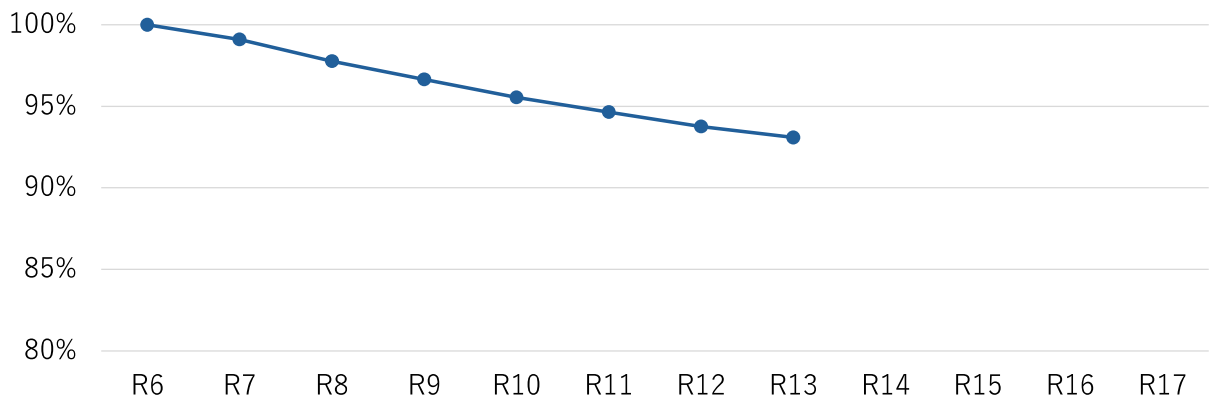
●推移

目標最終年度であるR13年度は、R6年度と比較して93.6%となる推移である。

2. R6年度を基準としたごみ量指数

【前提】①令和6年度及び各年度の目標値が無い区は、公表されている基準・中間目標・最終目標年度のごみ量から按分し、各年度のごみ量を便宜的に算定している。

②目標設定の方法や推計に使用する人口、持込ごみの目標設定有無等は各区で異なる。



ごみ量指数	100%	99.1%	97.8%	96.7%	95.5%	94.7%	93.8%	93.1%				
1人1日あたり (g/人日) *1	449.0	445.0	439.0	434.0	429.0	425.0	421.0	418.0				

*1 1人1日あたりのごみ量は、T区一廃計画に記載されている数値を基にしている。

3. 目標値設定・推計の考え方

パターンA

【目標値設定・推計の考え方パターン】

A：ごみ量（総量もしくは1人1日あたり）の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定

B：組成別の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定

C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定

D：その他

4. 目標実現に向けた主な施策

主な施策	内容	減量目標
環境学習・意識啓発の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人向け普及啓発の拡充（広報媒体の多言語化等） ●人材育成の推進（小中学校対象の環境学習、町会・自治体への出前講座、清掃工場等の見学会実施等） 	<p>< 区収集ごみ量 > 令和13年度目標 令和2年度比： 52g/人日(10.2%)減</p>
区民・事業者・区による協働体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人実施事業との連携（「おもちゃの病院」、「生ごみリサイクル講習会」等、ごみ減量に関する事業との連携） ●集団回収の促進 	
食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭系食品ロスの削減（フードドライブ、食べきりレシピの推進等） ●事業系食品ロスの削減（食べきり推進店の登録、食品ロス削減推進会議の運営、表彰制度の創設等） 	
プラスチックごみを含めた3Rの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●プラスチック資源循環の推進（マイバッグ運動推進店の拡大等） ●3Rの更なる推進（子ども服のリユース事業(*)の実施、ピックアップ回収の促進等） 	

(*) 区が特定出来る事業名称は、一般的な表現に一部変更している。

各区一廃計画における推計と23区推計の違いについて

	項目	各区一廃計画	23区推計
1	推計・計画の策定年度	区で異なる (H30～R7年度)	R6年度(統一)
2	推計期間	区で異なる	R6～R30年度(統一)
3	使用人口推計	下記の2パターンが混在 ・各区が作成する将来人口推計 ・東京都総務局の人口推計	東京都総務局の人口推計 (R2国勢調査ベース)
4	推計・計画の考え方	大きく分けて、下記4パターンに分類される A：ごみ量(総量もしくは1人1日あたり)の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を見込んで推計・設定 B：ごみの組成別に過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を推計し、減量施策による削減率を組成ごとに見込んで推計・設定 C：目標最終年度の目標値を設定し、バックキャストで中間目標年度や各年度の目標値を設定 D：その他	●ステップ1 [ごみ量予測ベース推計] 各区のごみ量実績の過去のトレンドをベースに、現状推移のごみ量を区別に推計し、合算して算出 ●ステップ2 [ごみ減量施策を反映した推計] ステップ1の推計に、各区が将来実施可能なごみ減量施策の効果を反映
5	諮問事項との関連	諮問1 清掃一組及び清掃主管部長会が作成したごみ量推計の妥当性の検証 諮問2 清掃主管部長会で検討したごみ減量施策以外の新たなごみ減量施策の検討 諮問1には関連しない 諮問2の検討資料として活用できるものと考えている	諮問1のうち、 <u>清掃主管部長会が作成したごみ量推計</u> に該当
6	施設整備計画への反映について	現状は、区により策定年度や計画期間、推計の考え方などが異なるため、施設整備計画には反映出来ない。	諮問事項1に該当する推計であり、施設整備計画への反映を検討する案の一つである。